



ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD.

会社説明資料

2025年5月版

May 2025 Presentation Material

Tokyo Stock Exchange PRIME section STOCK CODE : 9619



01

イチネングループについて

- 会社概要 P.3
- グループ会社と事業内容 P.4
- イチネングループの沿革 P.5
- イチネングループの強み P.7

02

イチネングループが向かうところ

- 連結業績の推移 P.10
- 資本コスト、資本収益性の推移 P.11
- PBR向上に向けた対策 P.12
- イチネングループ経営方針 P.18
- イチネングループ成長戦略 P.19

03

イチネングループの事業紹介

- 自動車リース関連事業 P.23
- ケミカル事業 P.25
- パーキング事業 P.27
- 機械工具販売事業 P.28
- 合成樹脂事業 P.30
- 農業関連事業 P.32
- その他事業 P.33

04

決算報告

2025年3月期 決算報告 P.35

05

今期の計画

2026年3月期 計画（連結） P.44

06

株主還元について

配当方針、株価の推移 P.47

07

参考資料

参考資料 P.49

会社概要



■ 商号	株式会社イチネンホールディングス ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD
■ 設立年月日	1963年（昭和38年）5月7日
■ 本社所在地	大阪市淀川区西中島四丁目10番6号
■ 代表者	代表取締役社長 黒田 雅史(くろだ まさし)
■ 上場	東証プライム（証券コード：9619）
■ 資本金	2,529百万円（2025年3月31日現在）
■ 売上高	154,920百万円（2025年3月期連結実績）
■ 決算月	3月
■ 従業員数	連結2,067人（2025年3月31日現在）
■ 経営理念	当社は、最高の品質とサービスで、より多くの顧客に満足を与え、適正な利潤を確保することにより、株主および従業員に報い、且つ社会に奉仕することを経営の基本理念とする。
■ グループ スローガン	いちねんで、いちばんの毎日。

当社は、一日、一日が最高の毎日（いちねんで、いちばんの毎日）となるように、グループの製品やサービスを通じて皆様に快適さをご提供するとともに、SDGs、脱炭素等の環境に配慮した製品・サービスの開発を進め、持続可能で豊かな社会に貢献できる事業の拡大を目指してまいります。

グループ会社と事業内容



※連結売上構成比率（2025年3月期）

自動車リース関連事業

39.3% 613億円

株式会社 **イチネン** 株式会社 **イチネン TDRリース** 野村オートリース株式会社

ケミカル事業

7.6% 118億円

株式会社 **イチネン ケミカルズ**

パーキング事業

5.1% 79億円

株式会社 **イチネン パーキング**

機械工具販売事業

23.1% 360億円

株式会社 **イチネン アクセス** 株式会社 **イチネン MTM** 蘇州豊島機械配件有限公司
ICHINEN USA CORPORATION 株式会社 **イチネン TASC0**
株式会社 **イチネン ネット** 株式会社 **イチネン ロジスティクス**

合成樹脂事業

12.2% 190億円

株式会社 **イチネン 製作所** 株式会社 **イチネン テック** 株式会社 **イチネン ポリマー**
マルイ工業株式会社 MARUI SUM (THAILAND) CO., LTD.
MARUI INDUSTRY (THAILAND) CO., LTD.

農業関連事業

11.3% 175億円

株式会社 **イチネン 農園** 株式会社 **イチネン 高知日高村 農園** **日東エフシー株式会社**
 明京商事株式会社 日東運輸倉庫株式会社
MEIKYO TRADING Co., Ltd.

その他事業

1.4% 21億円 ※日石硝子工業(株)の売上は含まれておりません。

新光硝子工業株式会社 **新生ガラス株式会社** **日石硝子工業株式会社**
株式会社 **イチネン ファシリティーズ**（不動産の賃貸・管理）

【関連会社（非連結）】 ICHINEN AUTOS (N.Z.) LIMITED（中古車販売）、株式会社イチネンオートス・ジャパン（中古車販売）、TASC0 (THAILAND) Co., Ltd.（機械工具販売）

イチネングループの沿革

1930年～ 石炭から石油へ転換

1930年

黒田重太郎商店を創業、石炭販売業を開始



1963年

黒田商事(株)設立、
EMGマーケティング(同)と販売代理店契約締結



1969年～ 自動車分野を中心に成長

1969年

商号を(株)イチネンに変更、
自動車リース業を開始



1980年

自動車メンテナンス受託事業
を開始



2000年

野村オートリース(株)、アルファオートリース(株)
をグループ会社化



1994年

大阪証券取引所市場第二部
(旧：新二部) 上場



2002年

パーキング事業を開始



2004年

(株)コーザイをグループ会社化、
自動車・産業用ケミカル事業に参入



2005年

東京証券取引所市場第一部、
大阪証券取引所市場第一部上場



2006年～ 自動車の変革を見据え新たな事業へ参入

2006年

タイホー工業(株)をグループ会社化、
(株)コーザイと合併し(株)タイホーコーザイ
(現：(株)イチネンケミカルズ)に商号変更



2008年

持株会社体制へ移行、商号を(株)イチネンホールディングスに変更
(株)イチネンパーキング営業開始 (パーキング事業部を新設分割)

イチネングループの沿革

2009年

黒田雅史が代表取締役社長に就任



2013年

タスコジャパン(株) (現：(株)イチネンTASCO)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化



2015年

東電リース(株)をグループ会社化、(株)イチネンTDリースに商号変更

2016年

・(株)イチネン農園を設立し、農業に参入
・野村オートリース(株)とアルファオートリース(株)が、野村オートリース(株)を存続会社として合併



2019年

・(株)イチネンとイチネンBPプラネット(株)が、(株)イチネンを存続会社として合併
・(株)イチネン前田と(株)イチネンミットモ、(株)ゴンドー、(株)イチネンSHOKO、(株)トヨシマが、(株)トヨシマを存続会社として合併し、(株)イチネンMTMに商号変更
・(株)イチネン農園の事業の一部を会社分割し、(株)イチネン高知 日高村農園を設立
・(株)アクセス (現：(株)イチネンアクセス) をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化

2022年

・(株)オートリをグループ会社化し、パーキング事業を強化
・(株)イチネンMTMの事業の一部を(株)アクセスへ吸収分割により継承し、(株)アクセスは(株)イチネンアクセスへ商号変更
・(株)イチネンジコーと(株)浅間製作所は、(株)浅間製作所を存続会社として合併し、(株)イチネン製作所へ商号変更
・東京証券取引所市場再編に伴い、プライム市場に移行

2012年

前田機工(株)(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業に参入。(株)ジコー(現：(株)イチネン製作所)をグループ会社化し、合成樹脂事業に参入



2014年

(株)ミットモ製作所(現：(株)イチネンアクセス)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化



2017年

・グループの物流業務効率化を目的とし、株式会社イチネンロジスティクスを設立。
・(株)イチネンケミカルズ 研究開発センターを移転(神奈川県藤沢市)



2018年

昌弘機工(株) (現：(株)イチネンアクセス)及び(株)トヨシマ (現：(株)イチネンMTM)をグループ会社化し、機械工具販売事業を強化

2020年

(株)浅間製作所 (現：(株)イチネン製作所) をグループ会社化し、合成樹脂事業を強化



2021年

新光硝子工業(株)、新生ガラス(株)をグループ会社化し、ガラス加工事業に参入



2023年

・(株)イチネンパーキングと(株)オートリは、(株)オートリを存続会社として合併し、(株)イチネンパーキングへ商号変更
・マルイ工業(株)と日東エフシー(株)をグループ会社化し、合成樹脂事業ならびに農業事業を強化



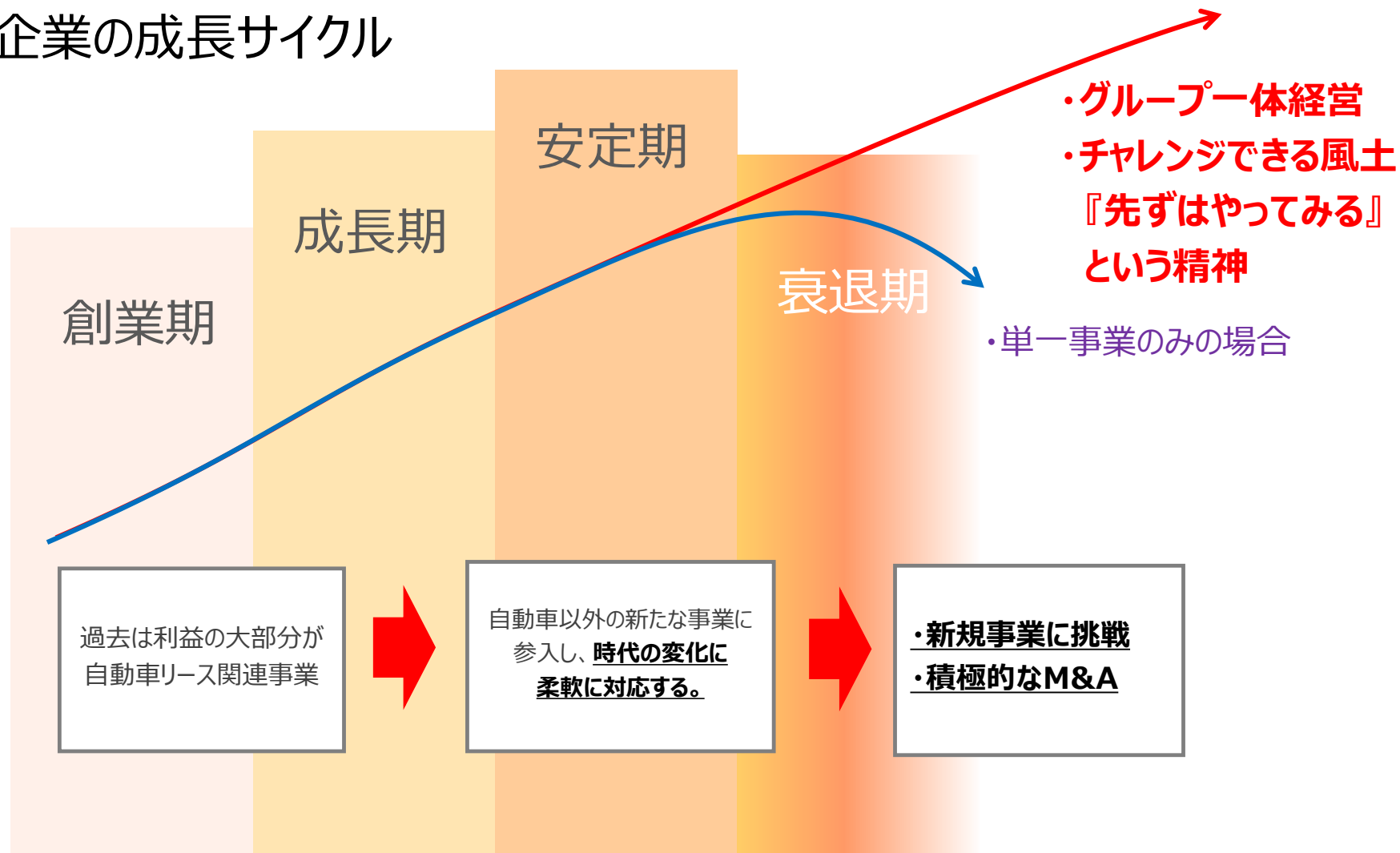
2025年

日石硝子工業(株)をグループ会社化し、ガラス加工事業を強化

イチネングループの強み

企業の成長サイクル

イチネングループのビジネスモデル



次の10年・・・創業100周年、そしてその先へ向けて、
チャレンジ精神を発揮し続けます。

新たな価値を創造し持続的に成長

グループ一体経営

多角化経営

6つのセグメントから形成

コロナ禍や外部要因等の影響が大きい中でも22期連続連結営業増益達成。



チャレンジできる風土

先ずはやってみるという精神

・複数のグループ横断プロジェクト

【活動内容】

- ・海外事業の拡大
- ・脱炭素に繋がる新商品、新サービス開発検討

・従業員からの声や意見の吸い上げ

【活動内容】

- ・グループ社内制度策定
 - ①グループ内転職
 - ②ダイバーシティ推進

持続的な成長を実現

・経営基盤の安定

事業の柱が複数ある事により、時代の変化に柔軟に対応できる。

・新規事業

コア事業の収益を資源に新規事業へ積極的に投資、参入。(M&A等含む)

・シナジー効果

各セグメントとのシナジー効果により、事業領域を拡大。

・経営資源の有効活用

事業拠点の共有化等。

01

1.イチネングループが向かうところ

02

2.イチネングループの事業紹介

03

3.決算報告

04

4.今期の計画

05

5.株主還元について

06

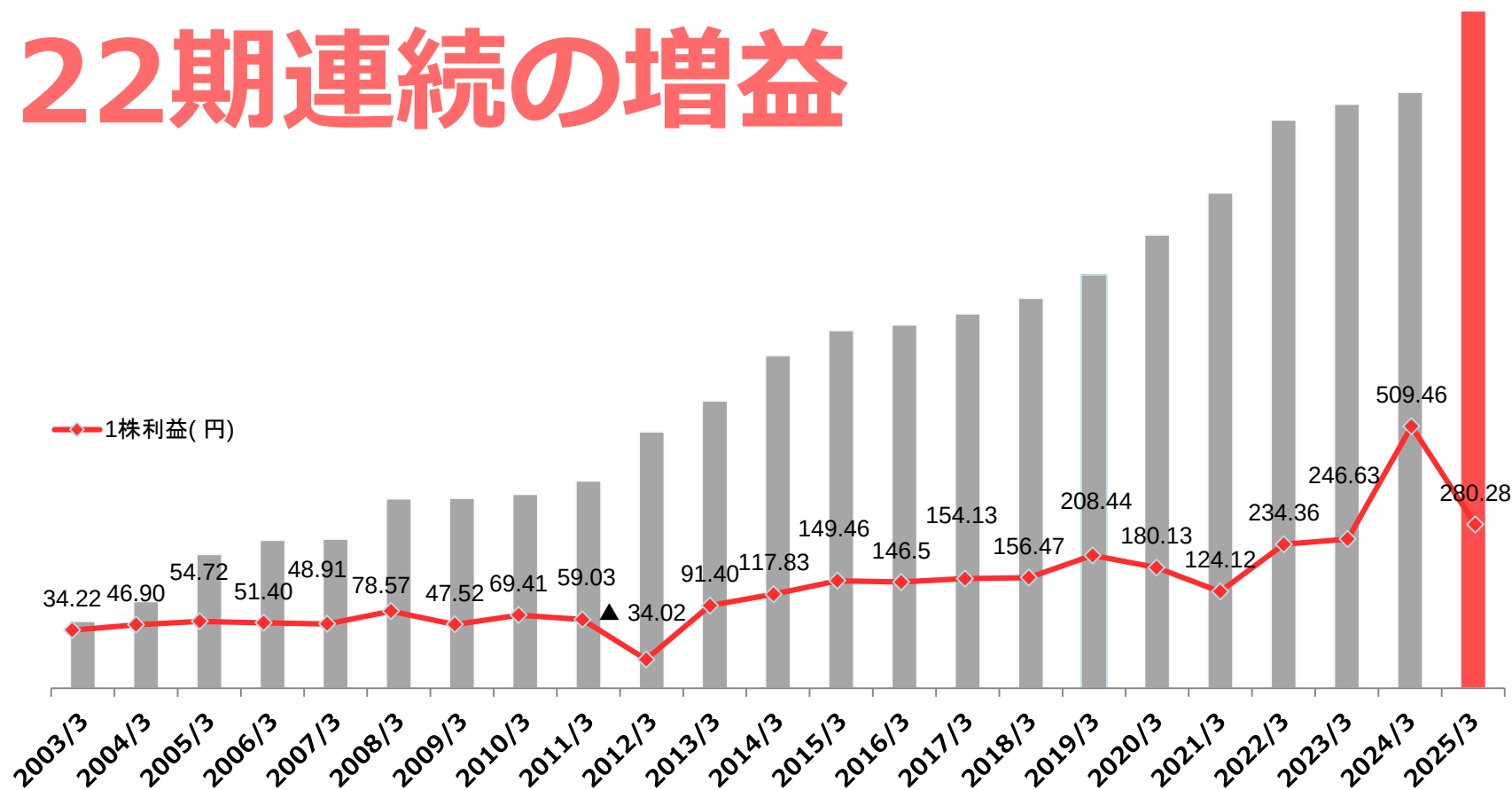
6.参考資料

102億円

前年同期比13.6%増

連結営業利益

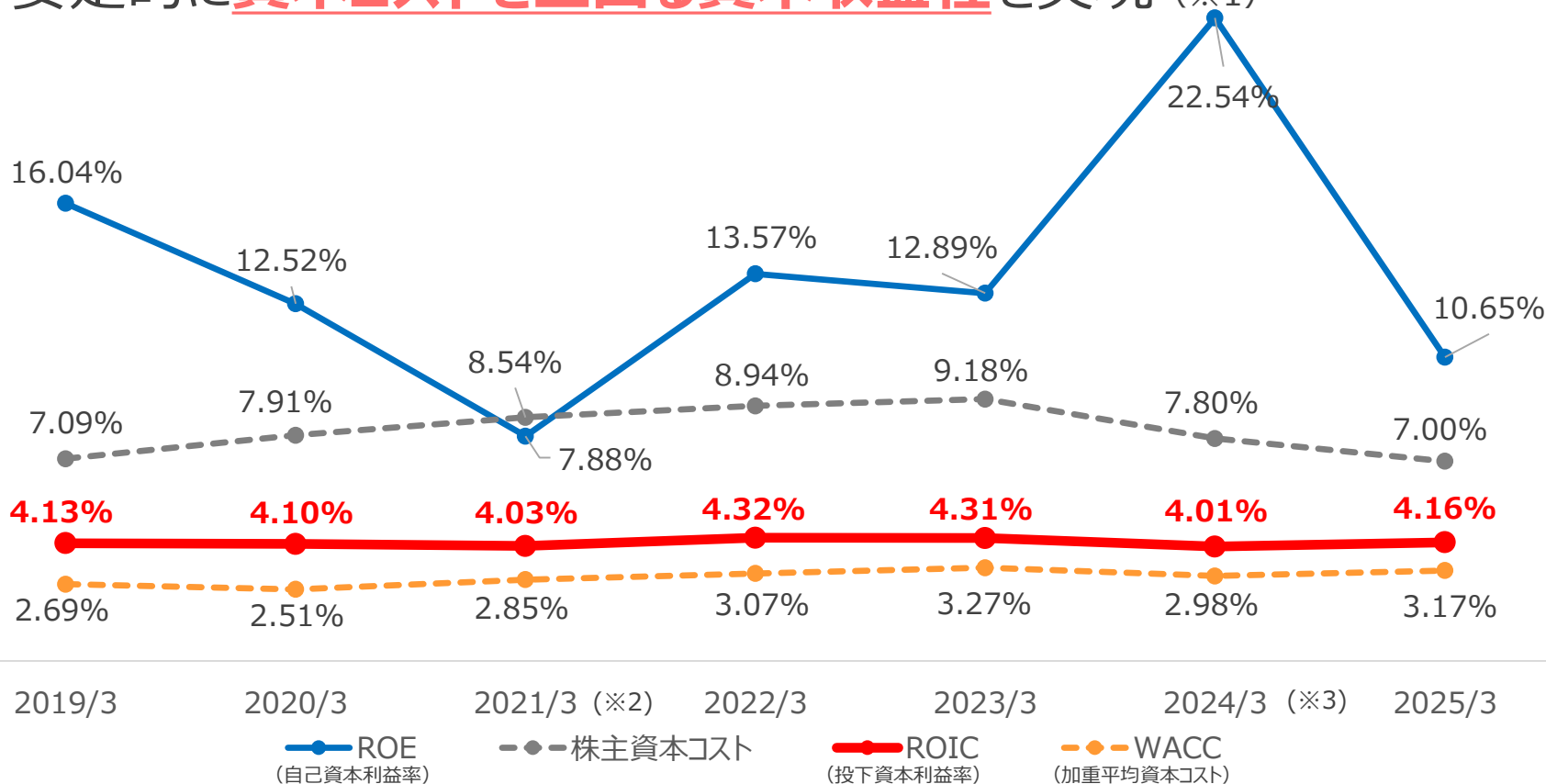
22期連続の増益



※2012年3月期は、自社保有駐車場の土地・建物の減損処理に伴い、当期純損失を計上。

資本コスト、資本収益性の推移

ROEが株主資本コストを、ROICがWACCを上回っており
安定的に資本コストを上回る資本収益性を実現 (※1)

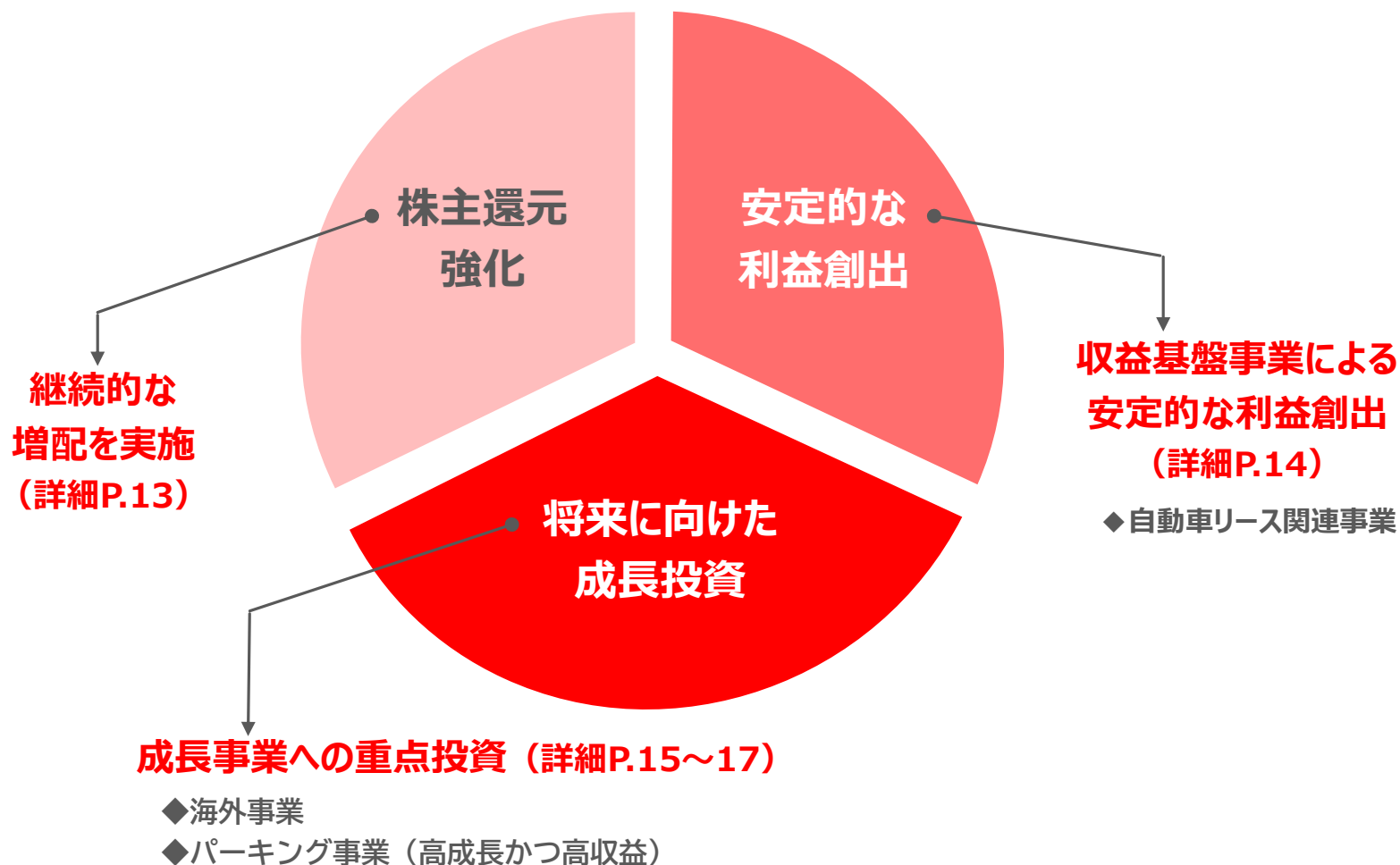


(※1) WACCの負債コストの算定には、資本市場による再調達金利の算定方法を採用しております。また、2024年3月期より、リスクフリーレートについては10年国債利回りを採用しております。(2023年3月期以前は30年国債利回りを採用)

(※2) 2021年3月期は、自動車リース関連事業の基幹システム開発中止等に伴う固定資産除売却損を計上したことにより、一時的にROEが低下しました。

(※3) 2024年3月期は、M&Aに伴う「負ののれん発生益」の計上により大幅にROEが上昇しておりますが、「負ののれん発生益」の影響を除外したROEは10.85%となります。

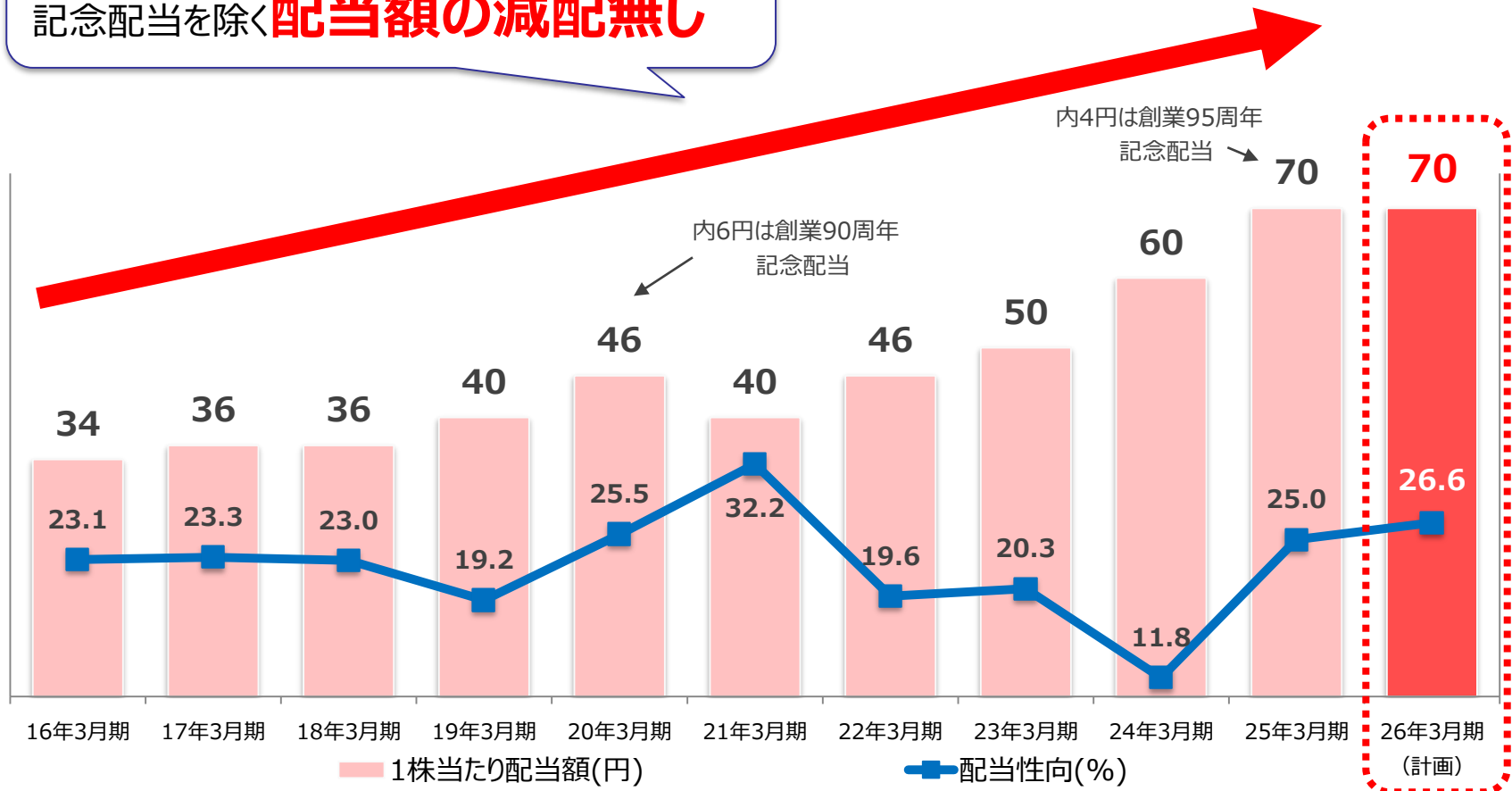
イチネングループのPBR改善策 3本柱



株主還元の強化

- 2023年3月末時点の株主様への贈呈をもって株主優待制度を廃止しました。
- 今後は現金配当による直接的な利益還元を強化してまいります。

コロナ禍や外部要因等の影響が大きい中でも、
記念配当を除く**配当額の減配無し**

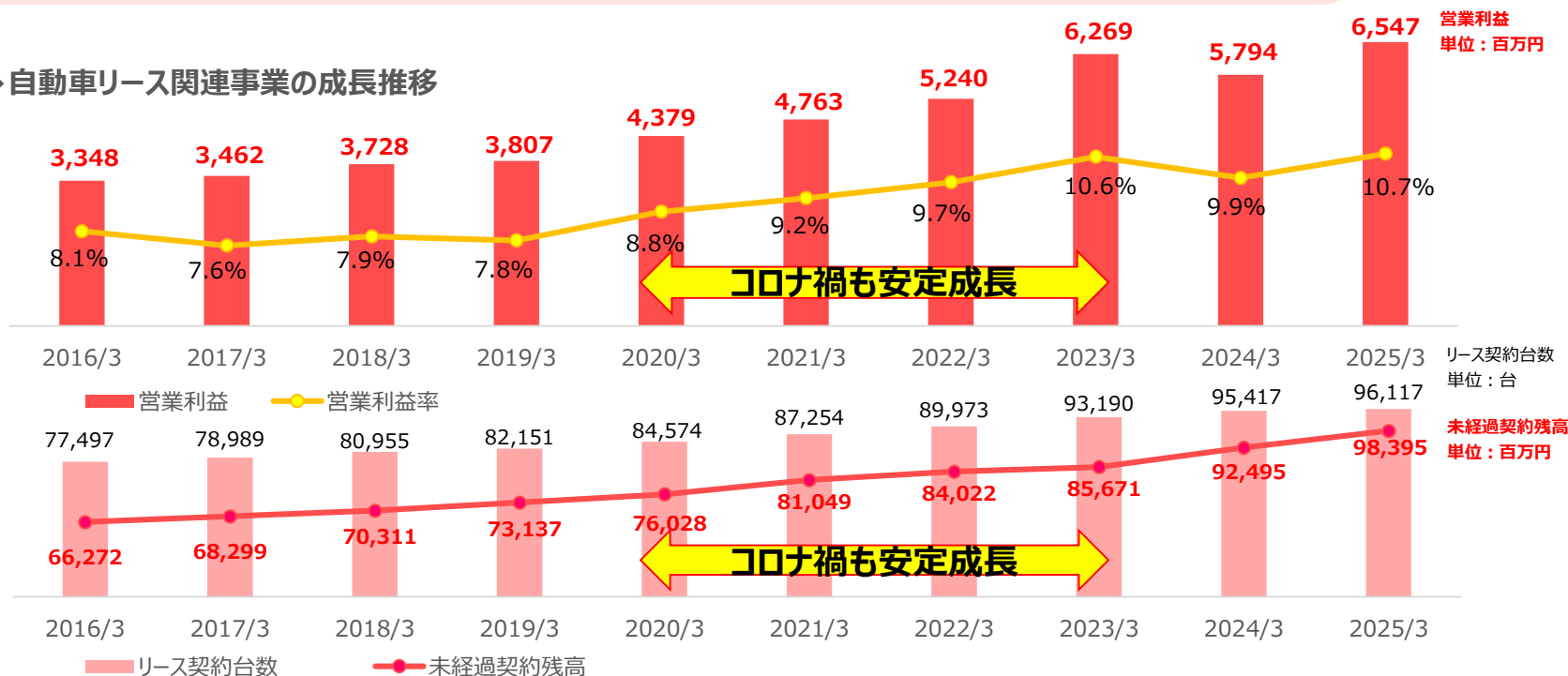


自動車リース関連事業は、グループの収益基盤事業として 今後も規模拡大に注力し、**安定的な利益創出を実現します**

POINT

- 安定的な利益成長により、**グループの盤石な収益基盤を形成**
- EV化が進んでも、リース契約台数は今後も継続伸長が見込める
- 収益基盤事業の安定的な利益をベースに、**成長事業への投資を加速**
- コロナ禍においても**安定した業績を維持・成長**

◆自動車リース関連事業の成長推移

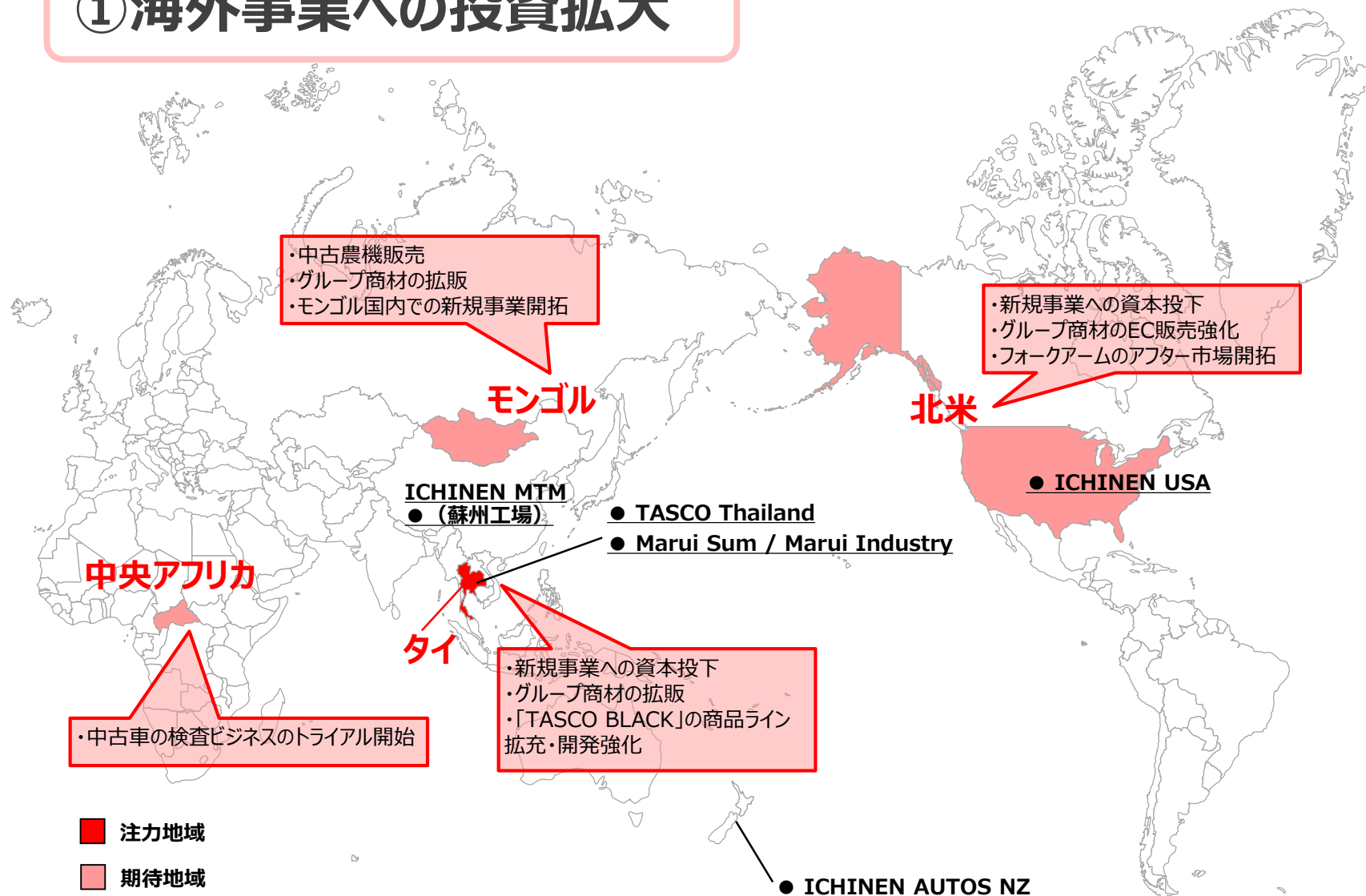


① 海外事業への投資拡大

海外売上高比率20%の達成に向け、以下の取組を推進します

- **注力地域:タイ**における既存事業の拡大
 - 空調工具の独自ブランド「TASCO BLACK」の商品ライン拡充・開発強化
 - グループ商材のタイにおける拡販（タイ合併会社の有効活用）
 - **期待地域:北米、中央アフリカ、モンゴル等**における新規事業展開
 - 北米における新規事業展開の検討
 - 中央アフリカ、モンゴル等への中古車/中古農機の輸出販売の推進
 - **M&Aの更なる強化、スピードアップ**
 - 海外に一定の事業基盤を持つ国内企業のM&Aを推進
- TOPICS** 2023/10/16付で、主にタイで自動車用内外装部品の製造・販売を行う
マルイ工業が新たにグループに加入 <https://ssl4.eir-parts.net/doc/9619/tdnet/2345874/00.pdf>
- 当社事業と親和性のある海外企業のM&Aを検討

① 海外事業への投資拡大



② パーキング事業への積極投資

高成長かつ高収益なパーキング事業に積極投資を行います

■ **駐車場の新規設備投資**による稼働率向上

- キャッシュレス決済、フラップレス駐車場の導入を加速し、利便性向上による顧客獲得、稼働率の向上に繋げる



■ **M&Aによる事業規模拡大**

- 2022年3月に(株)オートリ(2023年4月にイチネンパーキングと合併)を子会社化し、パーキング事業の規模拡大を加速

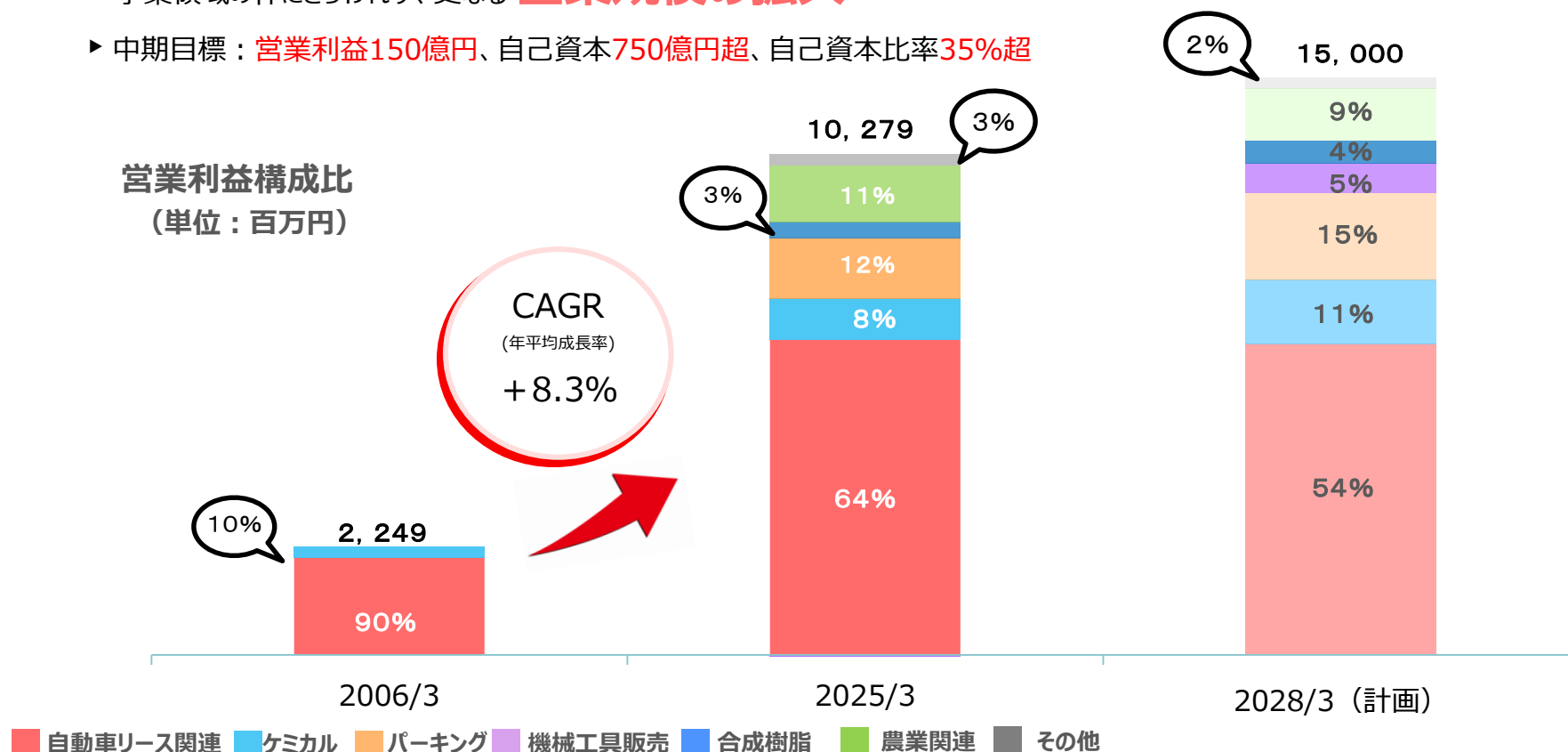


イチネングループ経営方針

グループ一体経営の推進

- ▶ 自動車分野以外で安定的に連結営業利益の10%以上を稼ぐ **事業の柱の育成**
- ▶ 事業領域の枠にとらわれず、更なる **企業規模の拡大**
- ▶ 中期目標：営業利益150億円、自己資本750億円超、自己資本比率35%超

営業利益構成比
(単位：百万円)



※2006年3月期については、リース、メンテナンス受託、燃料販売、その他の合計値を「自動車リース関連」としています。

※2025年3月期の構成比には機械工具セグメントの数値-1%が含まれています。

長期経営数値目標

売上高 2,000億円超

営業利益 200億円超

積極的なM&Aの展開

- ・M&Aによる新規分野への参入、既存事業の強化を図る。
- ・更なる多角化経営の推進により、リスク分散と安定成長を図る。

海外展開の強化

- ・海外売上高比率20%を目指す。
- ・グループ横断のプロジェクトにおいて、抜本的な海外戦略の見直しを実施。
- ・海外拠点の設置も含め、ASEAN諸国等の有望市場の開拓を推進する。

既存事業の規模の拡大

- ・地方都市への拠点展開、新規情報源の開拓等により数量の拡大を図る。
- ・EV化、脱炭素化への取り組みにより、
新サービス・新商品の開発を進め、事業領域の拡大を図る。

自動車リース関連事業
・リース・メンテナンス契約台数
2006年3月期 114,602台
2025年3月期 172,104台

200億円

102億円

■ 積極的なM&Aを実施するために2008年10月より**ホールディングス体制に移行**

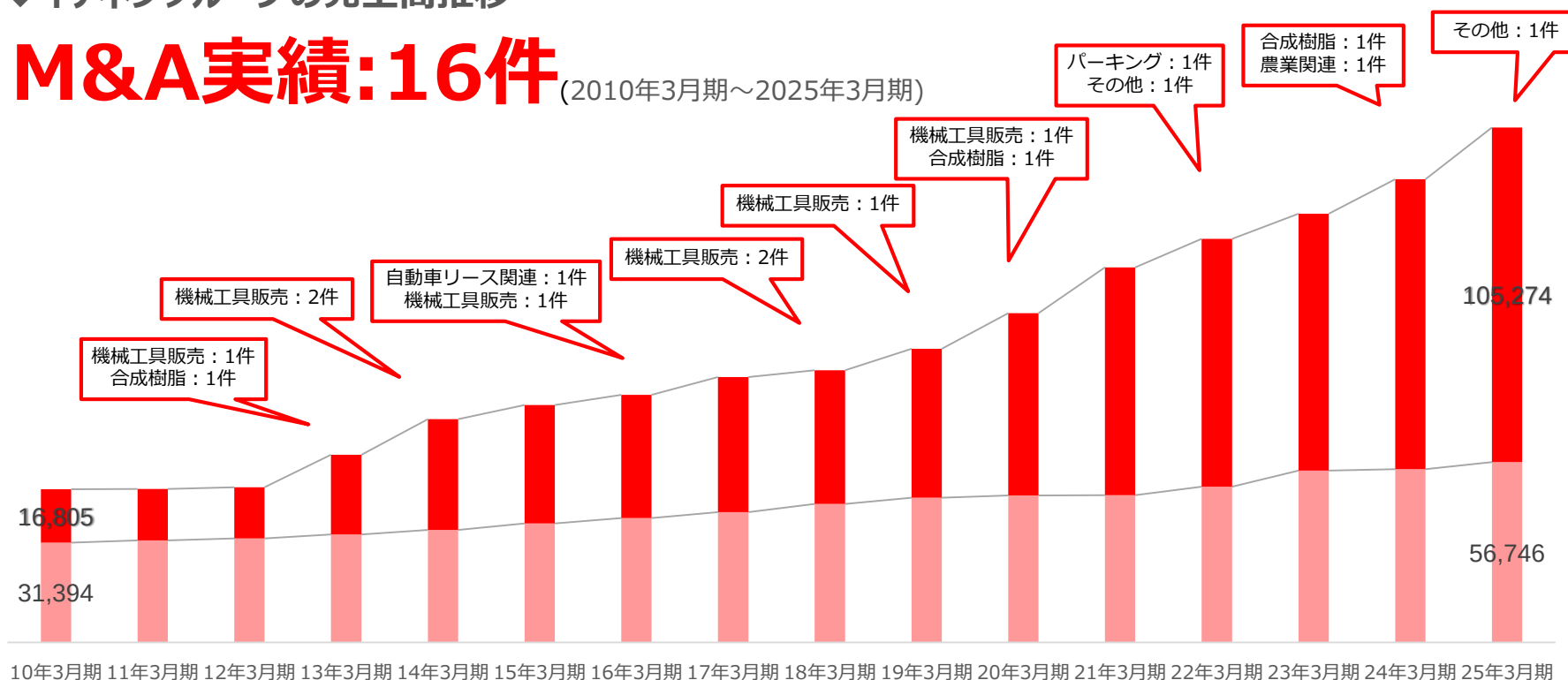
- M&Aの狙い：更なる**事業の多角化・企業規模の拡大**を推進
- M&Aの基準：**グループ入り後ただちに業績に寄与**すること

◆ イチネングループの売上高推移

M&A実績: 16件

(2010年3月期～2025年3月期)

※日石硝子工業(株)の売上は含まれておりません。

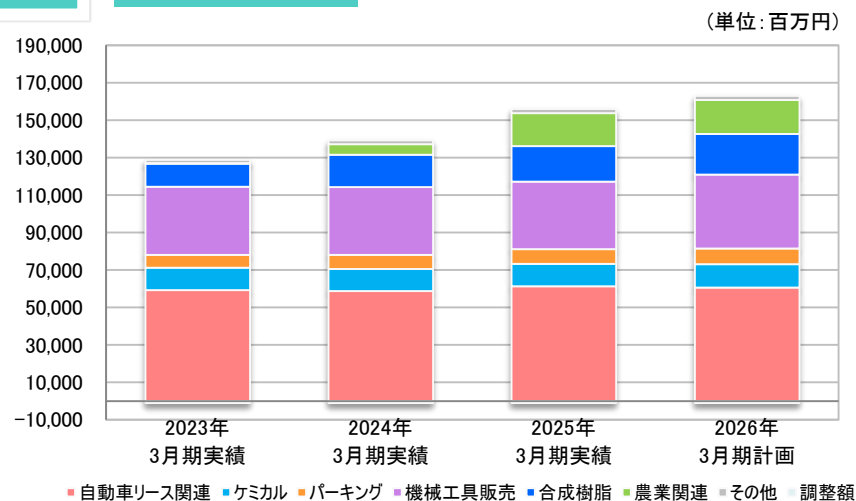


■ 既存会社の売上高 ■ M&Aによりグループ入りした会社の売上高 (単位: 百万円)

セグメント別売上高／同シェアの推移 (百万円未満切捨)

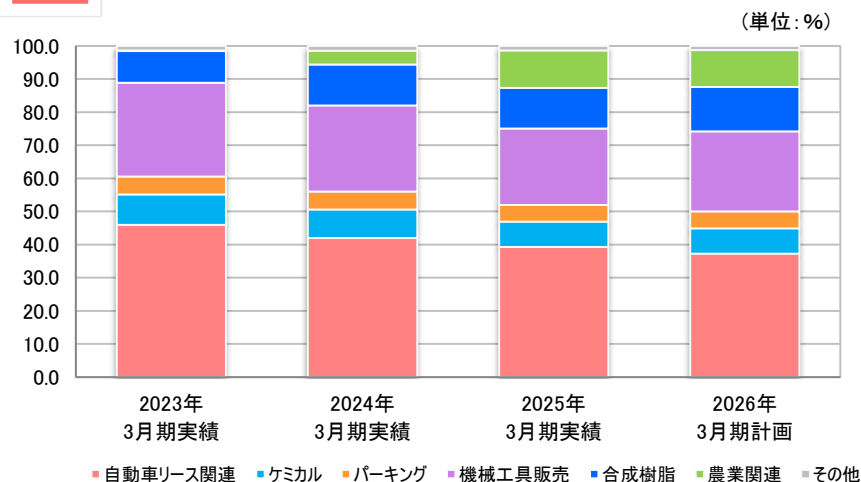
01

セグメント別売上高



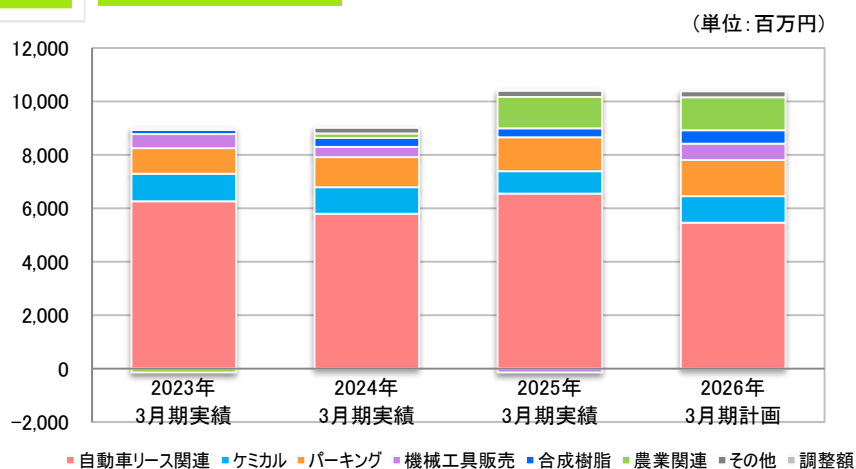
02

セグメント別売上高シェア



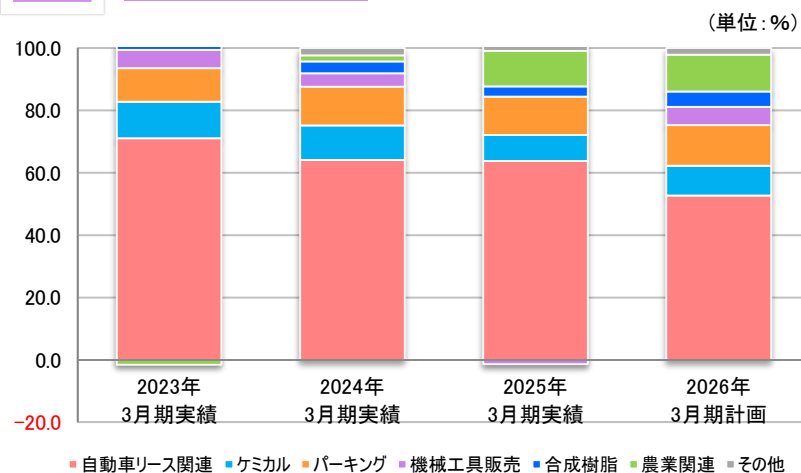
03

セグメント別営業利益



04

セグメント別営業利益シェア



01

1. イチネングループが向かうところ

02

2. イチネングループの事業紹介

03

3. 決算報告

04

4. 今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 参考資料

高品質なメンテナンス付き自動車リースを軸に 車に関連する様々なサービスをワンストップで提供

【事業内容】

- ・オートリース：法人顧客向けメンテナンス付き自動車リース
- ・自動車メンテナンス受託：リース車両のメンテナンスを他のリース会社様より受託
- ・車両販売：リース満了車・外部仕入れ車両の販売
- ・燃料販売：「燃料給油カード」などの販売
- ・車体修理管理サービス：車体の外装修理サービスの提供

【強み】

- ・北海道から九州までをカバーする全25拠点体制
- ・全国に広がる提携整備工場のネットワークをフル活用
- ・独自の車両販売ルートの確立（ICHINEN AUTOS（N.Z））

【成長戦略】

- ・徹底したエリアマーケティングをベースとした台数規模の拡大
- ・リースアップ車の処分ルートが多様化
- ・個人リース市場の開拓



自動車リース関連事業の指標

事業売上高

61,361百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

6,547百万円
(2025年3月期実績)

リース/メンテナンス受託 契約台数

リース：**96,117台**
メンテ：**75,987台**
(2025年3月末時点)

燃料カード販売実績

発券枚数：**247,989枚**
給油数量：**218,191kl**
(2025年3月末時点)

提携整備工場 ネットワーク

全国約8,800社
(2025年3月末時点)

自動車リース関連事業（参考資料）

国内中古車ヤード（神戸市）



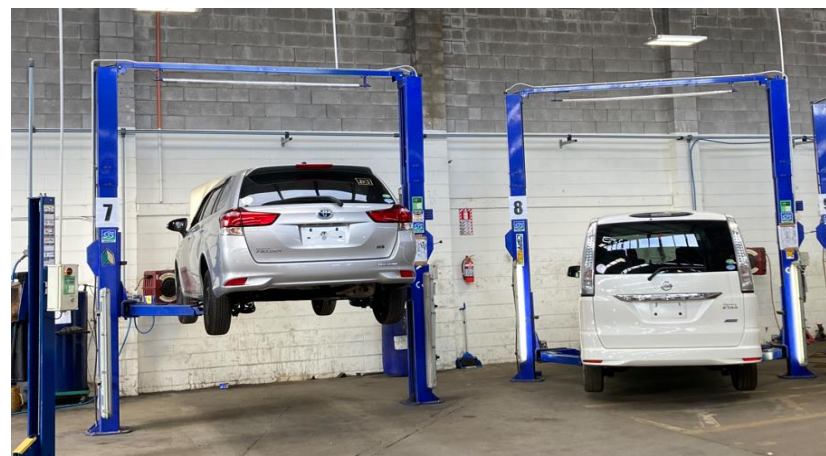
国内中古車ヤード（さいたま市）



ICHINEN AUTOS(N.Z.) LTD 2号店



EAGLE AUTO SERVICES 整備工場



環境対応・省エネ・生産性向上など、顧客のニーズに応える 多彩なケミカル製品を開発

【事業内容】

- ・プロユースケミカル事業：潤滑剤、防錆剤（自動車整備工場向け）等の販売
- ・テクノケミカル事業：燃料添加剤（火力発電所等向け）等の販売
- ・コンシューマケミカル事業：クリンビューブランド（カーケミカル用品）等の販売
- ・新規事業開発：その他商材の開発、販売

【強み】

- ・創業以来、産業用工業製品、家庭用化学製品の分野で独自の技術開発力とノウハウを保有
- ・確かな技術と厳しい品質管理でお客様に信頼されるケミカル製品を提供
- ・業界内で高シェアを誇る添加剤事業



【成長戦略】

- ・新たなニッチ市場におけるNo.1製品の開発を目指す
- ・脱炭素社会を見据えた環境配慮型製品の開発加速
- ・海外展開を加速し、販売地域、販売品目を拡大

ケミカル事業の指標

事業売上高

11,854百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

848百万円
(2025年3月期実績)

海外販売国

15か国
(2025年3月末時点)

部門別売上シェア

PC事業部：**45.9%** TC事業部：**28.6%**
第三営業部(マリン・海外)：**14.8%**
CC営業部：**9.4%** 新規事業開発部：**1.3%**
(2025年3月期実績)

植物性パーツクリーナー

洗浄成分に **植物由来原料を100%** 使用した環境配慮型洗浄剤です。

バイオマスマーク55 取得しました

CO₂排出量の削減が可能！カーボンニュートラルへ貢献！

特長

- 洗浄成分に植物由来原料を使用しているため、CO₂排出量の削減が可能です。
- 洗浄成分が速乾性ではないので汚れに浸透していき、強力に除去します。
- 第二石油類なので引火点が高く、第一石油類と比較して安全性が高いです。
- 「有機溶剤中毒予防規則」、「PRTR」非該当。

用 途

- 接着剤、テープの残りの除去
- 金属部品、金型、工具等の洗浄
- 機械設備及び部品の油汚れ落とし
- ギアボックス、ベアリングのグリース汚れ落とし
- 油圧機器、シリンダーの油汚れ落とし
- チェーンの脱脂洗浄

品 番: 001020
内容量: 500mL
入 数: 24本 (6本×4箱)
JANコード: 4985329010205

CO₂排出量の比較 (当社品)

品番	品名	CO ₂ 排出量 (g/本)
001020	植物性パーツクリーナー (500mL)	315
002255	2Bクリーナー (500mL)	966
003598	パーツ＆ブレーキクリーナー (840mL)	1547

一般的なパーツクリーナー (石油由来原料) よりも

CO₂排出量を大幅に削減

「Green JIP グリーンジップ」とは、地球環境に配慮したモノづくりを目指し開発した製品ブランドです。

ONEバイオ（バイオマス添加剤）

ONE BIO

バイオマス添加剤

ONE バイオシリーズ B-001

汎用樹脂 (PP・PE) 向けバイオマス添加剤

- ONE バイオ B-001 は、植物 (トウモロコシ) 由来の原料を 80% 使用したバイオマス添加剤です。CO₂ 排出削減の一助になり、地球温暖化防止に貢献します。(バイオマス 80 認証番号 210019)
- ご使用の PP、PE ペレットに混ぜるだけでバイオマス度を向上させます。
- PP、PE と成形収縮率が同等なので、現行の成型機・金型で成形が可能。
- ONE バイオ B-001 添加により、製品の一部が植物由来の原料となります。また、12.5% 添加によりバイオマス 10 認証のバイオマス度申請基準をクリアします。使用量が少なく、コスト的にも優れています。
- 環境関連への取り組み (SDGs など) における企業活動の一環としてもご利用いただけます。

Plastics Smart

ONE バイオ B-001 物性評価

	曲げ強度 (MPa) JIS K7171	曲げ弾性率 (MPa) JIS K7171	アイソット衝撃強度 (kJ/m ²) JIS K7110
ポリプロピレン汎用	41.9	1450	2.3
ONE バイオ B-001 12.5%	36.2	1240	2.5

安全・安心、利便性の高い「ストレスフリー」な駐車場運営により 高稼働・高収益を実現

【事業内容】

- ・コインパーキングの運営：
土地を借り上げ、初期投資費用、ランニングコストは全て当社が負担
- ・施設付帯駐車場の管理受託・運営：
病院、商業施設等の駐車場の設備投資から運営管理までを当社が受託

【強み】

- ・コインパーキングの収益性を高める
小回りの利いた販売促進策
- ・病院等に付帯する立体駐車場の
建設から管理運営までを一括して
受注するPFI事業



【成長戦略】

- ・既存駐車場の売上拡大、収支改善
- ・新規情報源の開発による駐車場数の拡大
- ・キャッシュレス/フラップレス化等の推進による
サービス品質向上
- ・デッドスペースの有効活用（バイク駐輪用
スペースの新設等）

パーキング事業の指標

事業売上高

7,905百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

1,265百万円
(2025年3月期実績)

中期目標

売上高 100億円
営業利益 15億円

地域別契約割合 (件数ベース)

関西 55.9%
関東 35.5%
(2025年3月末時点)

駐車場管理件数

コイン・立駐：**1,658箇所**
来客用駐車場：**207箇所**
管理受託：**67箇所**
(2025年3月末時点)

自動車/産業機械用部品・冷凍空調工具等、多種多様な 商材をラインナップし、自社オリジナル商品も数多く展開

【事業内容】

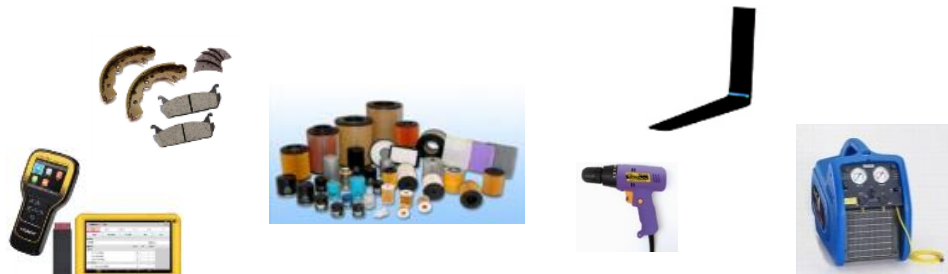
- ・イチネンアクセス：自動車部品・産業資材・各種工具などの販売
- ・イチネンMTM：フォークリフト用アームの製造
- ・イチネンTASCО：空調冷凍工具・計測機器等の販売
- ・イチネンネット：ネット販売事業
- ・イチネンロジスティクス：グループ内の物流事業

【強み】

- ・幅広い商品ラインナップを持ち自社ブランド製品も数多く展開
- ・TASCОブランドの空調工具は国内トップシェア
- ・セグメント内の各社販路を活用したクロスセル等、仕入・販売の両面における高いシナジー

【成長戦略】

- ・オリジナル製品の開発、販売強化による収益向上
- ・ネット通販事業のさらなる収益拡大
- ・脱炭素社会に向けた取扱い商材の拡充
- ・海外展開の強化
- ・物流機能の集約による効率化



機械工具販売事業の指標

事業売上高

36,085百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

▲141百万円
(2025年3月期実績)

中期目標

セグメント売上高
500億円超

海外拠点

3拠点
(アメリカ、中国、タイ)

機械工具販売事業（参考資料）

イチネンTASCO 冷媒回収装置"クワトロ"TA110VF



確かな技術力で遊技機部品、自動車用内外装部品等の 企画・デザイン・設計・試作・生産までを一気通貫で提供

【事業内容】

- ・遊技機部品事業：遊技機等のプラスチック製品のデザイン・製造・販売等
- ・合成樹脂事業：リサイクル樹脂・オリジナル再生樹脂の販売
- ・科学計測器事業：ガス濃度計や警報器等の製造、販売
- ・自動車用内外装部品事業：エンブレムや自動車内外装部品の製造・販売



【強み】

- ・主要大手メーカーとの安定的な取引関係を維持
- ・製品のデザインから金型設計、成形、特殊加工、組立まで一気通貫の生産体制を構築

【成長戦略】

- ・既存技術を応用した新製品の開発・販売
- ・高付加価値な樹脂材料の拡販
- ・製品の生産効率向上・量産化
- ・海外事業展開の強化

合成樹脂事業の指標

事業売上高

19,026百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

336百万円
(2025年3月期実績)

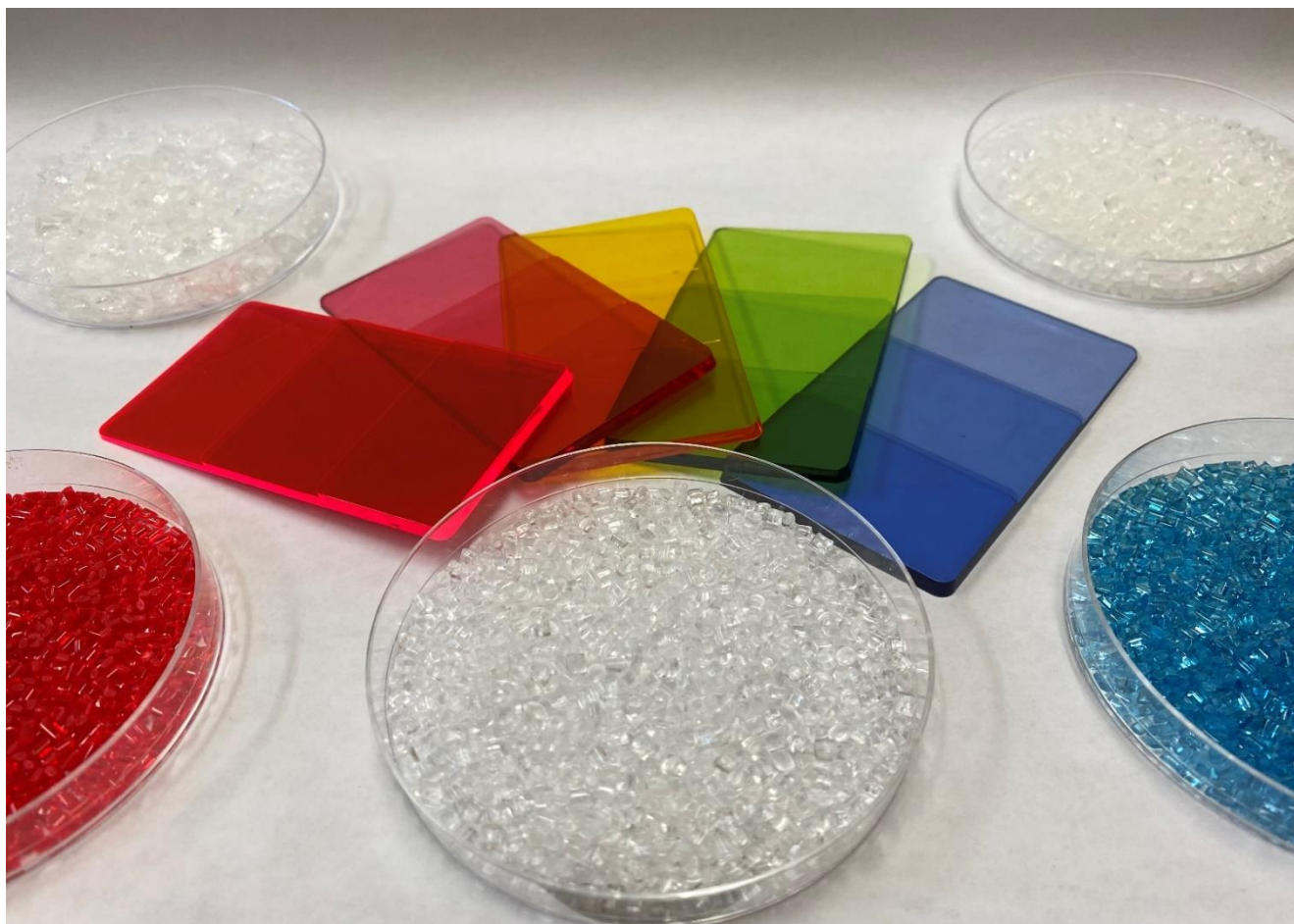
中期目標

セグメント売上高
300億円超

海外拠点

タイ
(グループ会社2社)

イチネン製作所 自社ブランド再生プラスチック材料



肥料の製造・販売・輸入事業を軸に、自社農場の 展開による社会価値の創造にも挑戦

【事業内容】

- ・肥料事業：多種多様な肥料を製造・販売
- ・商社事業：明京商事(株)を通じた海外の化学・肥料製品の輸入・販売
- ・農園事業：ミニトマト・ピーマンの栽培、地域野菜の普及、6次産業化



【強み】

- ・肥料の原料調達から製造・出荷まで一貫した生産体制
- ・農家様への栽培技術指導等の独自ノウハウ
- ・大規模な次世代ハウスによる農作物の大量生産・販売

【成長戦略】

- ・農作業省力肥料の開発・販売強化、ラインナップ拡充
- ・気候変動に対応した肥料製品の開発、販売強化
- ・販売ルート多様化に向けた新規顧客開拓
- ・農業ベンチャー企業と連携したDXの推進

農業関連事業の指標

事業売上高

17,578百万円
(2025年3月期末実績)

営業利益

1,168百万円
(2025年3月期末実績)

曲げガラスを柱とした唯一無二の技術力を武器に 強化ガラス・合わせガラス等の多彩なガラス製品を展開

【事業内容】

- ・新光硝子工業(株)、新生ガラス(株)：
曲げガラスの加工を柱とし、ビル建材・内装・ケース・車輛用などの
多様な板ガラスの加工製品を製造・販売。
- ・日石硝子工業(株)：
液晶調光ガラス、装飾合わせガラス、防音合わせガラス、強化ガラス、
タペストリーガラスなど、住宅、オフィス、商業施設向けに多様な
板ガラスの加工製品を製造・販売。



新幹線はやぶさフロントガラス



東京証券取引所マーケットセンター



ヨドバシカメラマルチメディア梅田様
立体歩道橋

【強み】

- ・長年積み上げてきた確かな技術力
- ・ガラス加工製品の専門メーカーとしての
高い技術力
- ・商業用施設やオフィスビル、美術館など
あらゆる市場の顧客ニーズに対応

【成長戦略】

- ・都市圏の再開発案件等の早期情報
収集及び受注強化
- ・生産効率の向上を目的とした
機械化・DX化を推進

その他事業の指標

事業売上高

2,153百万円
(2025年3月期実績)

営業利益

236百万円
(2025年3月期実績)

NEWS!

2025年3月31日にグループ入り！

日石硝子工業株式会社

住宅・オフィス・商業施設向けにガラス加工製品を製造・販売し、
大手企業へのOEM供給や自社製品の展開も行っています。
新光硝子グループとの連携により、技術開発や原材料調達効率化、
商品ラインナップの拡充などの相乗効果が見込まれ、
事業の拡大と収益性の向上が期待されます。

01

1. イチネングループが向かうところ

02

2. イチネングループの事業紹介

03

3. 決算報告

04

4. 今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 参考資料

2025年3月期 連結損益計算書 (百万円未満切捨)



単位：百万円		2024年3月期		2025年3月期		前期比 増減率	2025年 3月期 計画	計画比
		金 額	構成比	金 額	構成比			
売上高		138,253	100.0%	154,920	100.0%	112.1%	160,000	96.8%
	自動車リース関連	58,673	42.1%	61,361	39.3%	104.6%	58,536	104.8%
	ケミカル	11,918	8.6%	11,854	7.6%	99.5%	12,074	98.2%
	パーキング	7,497	5.4%	7,905	5.1%	105.4%	8,106	97.5%
	機械工具販売	36,189	26.0%	36,085	23.1%	99.7%	39,111	92.3%
	合成樹脂	17,330	12.4%	19,026	12.2%	109.8%	19,800	96.1%
	農業関連	5,673	4.1%	17,578	11.3%	309.9%	21,417	82.1%
	その他	2,075	1.4%	2,153	1.4%	103.7%	2,086	103.2%
	調整額	▲1,104	-	▲1,044	-	-	▲1,130	-
売上総利益		29,775	21.5%	34,024	22.2%	114.3%	33,104	102.8%
販売管理費		20,730	15.0%	23,744	15.3%	114.5%	23,904	99.3%
営業利益		9,045	6.5%	10,279	6.6%	113.6%	9,200	111.7%
経常利益		9,460	6.8%	10,318	6.7%	109.1%	9,000	114.7%
親会社株主に帰属する当期純利益		12,253	8.9%	6,657	4.3%	54.3%	5,700	116.8%

自動車リース関連事業は車両リースが堅調に推移したことに加え、中古車相場高騰により車両販売が好調に推移したことから売上・利益が増加しました。パーキング事業、その他事業は販売が増加しました。また、前連結会計年度より連結子会社となった、マルイ工業(株)及び日東エフシー(株)の業績が寄与したこと等により合成樹脂事業並びに農業関連事業の販売が増加しました。これらの結果、売上高、営業利益、経常利益の項目で過去最高値を更新しました。

2025年3月期 セグメント別営業利益 (百万円未満切捨)

単位：百万円		2024年 3月期	2025年 3月期	前 期 比 増 減 率	2025年 3月期 計画	計 画 比
		金 額	金 額			
営業利益		9,045	10,279	113.6%	9,200	111.7%
	自動車リース関連	5,794	6,547	113.0%	4,804	136.3%
	ケミカル	998	848	84.9%	1,032	82.2%
	パーキング	1,121	1,265	112.8%	1,157	109.3%
	機械工具販売	384	▲141	-	661	-
	合成樹脂	339	336	99.2%	286	117.8%
	農業関連	167	1,168	698.9%	1,005	116.3%
	その他	216	236	109.2%	235	100.7%
	調整額	22	19	-	20	-

(自動車リース関連)
 ・リースは契約台数が増加したことにより順調に推移。
 ・車両販売の販売単価が上昇。

(ケミカル)
 ・自動車整備工場向けケミカル製品、機械工具商向けケミカル製品及び船舶用燃料添加剤の販売は順調に推移。
 ・燃料添加剤及び石炭添加剤並びに一般消費者向けケミカル製品の販売は減少。
 ・販売減少に加えて営業活動の増加等に伴い販売費及び一般管理費が増加した影響により利益が減少。

(パーキング)
 ・新規駐車場の開発は順調に推移。
 ・既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、利益が増加。

(機械工具販売)
 ・自動車部品及び産業資材並びに空調工具及び計測工具の販売は順調に推移。
 ・建設機械部品及び産業機械部品の販売は減少。
 ・急激な為替変動の影響に加えて営業活動の増加等に伴い販売費及び一般管理費が増加した影響により利益が減少。

(合成樹脂)
 ・半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売は順調に推移。
 ・遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売は減少。
 ・マルイ工業の海外子会社において、退職給付費用計上等の影響により利益が減少。

(農業関連)
 ・既存農場における農作物の販売単価の上昇等の影響により利益が増加。
 ・前期に連結子会社となった日東エフシーが利益増加に寄与。

2025年3月期 連結貸借対照表 (百万円未満切捨)



■ 資産の部

単位：百万円	2024年 3月	2025年 3月	増減額
流動資産	94,997	96,914	+1,917
受取手形及び売掛金	21,637	20,849	▲788
リース債権及びリース投資資産	28,913	31,229	+2,316
商品及び製品	15,830	14,920	▲910
固定資産	107,547	108,376	+829
賃貸資産	60,516	62,250	+1,734
投資有価証券	6,863	6,055	▲808
繰延資産	61	79	+17
資産合計	202,606	205,371	+2,765

■ 負債の部

単位：百万円	2024年 3月	2025年 3月	増減額
流動負債	63,559	57,506	▲6,052
支払手形及び買掛金	16,076	15,015	▲1,061
短期有利子負債	33,166	30,282	▲2,883
固定負債	78,038	82,468	+4,429
長期有利子負債	74,381	78,391	+4,010

■ 純資産の部

純資産合計	61,007	65,395	+4,388
利益剰余金	53,887	59,054	+5,167
負債・純資産合計	202,606	205,371	+2,765

《資産の部》

- 「受取手形及び売掛金」の減少 7億88百万円
- ファイナンス・リース取引の契約増加による「リース投資資産」の増加 23億16百万円
- 「賃貸資産」の増加 17億34百万円
- 「投資有価証券」の減少 8億8百万円

《自己資本比率》

- 2025年3月期の自己資本比率31.5% ⇒中期数値目標は、自己資本750億円超、自己資本比率35%超

2025年3月期 連結キャッシュ・フロー等 (百万円未満切捨)



■キャッシュ・フロー

単位：百万円	2023年3月	2024年3月	2025年3月	前期比増減額
営業活動	2,716	5,266	4,018	▲1,248
投資活動	▲1,860	▲16,541	▲2,067	+14,473
財務活動	▲1,778	+9,636	▲1,329	▲10,966

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フロー：+40億18百万円
 (主な要因) ⇒「税金等調整前当期純利益」：+101億95百万円、
 オペレーティング・リース取引の契約増加による「賃貸資産の増加」：△176億8百万円、
 「減価償却費」：+186億61百万円、「売上債権の減少」：+20億35百万円、
 「仕入債務の減少」：△18億5百万円、「法人税等の支払額」：△68億61百万円、
 「リース債権及びリース投資資産の増加」：△29億70百万円、「棚卸資産の減少」18億2百万円
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フロー：△20億67百万円
 (主な要因) ⇒「有形及び無形固定資産の取得による支出」：△21億30百万円
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フロー：△13億29百万円
 (主な要因) ⇒「借入れによる収入」：+185億円、「社債の発行による収入」：+99億52百万円、
 「借入金の返済による支出」：△231億43百万円、
 「社債の償還による支出」：△52億30百万円、「配当金の支払額」：△15億2百万円

■設備投資・減価償却

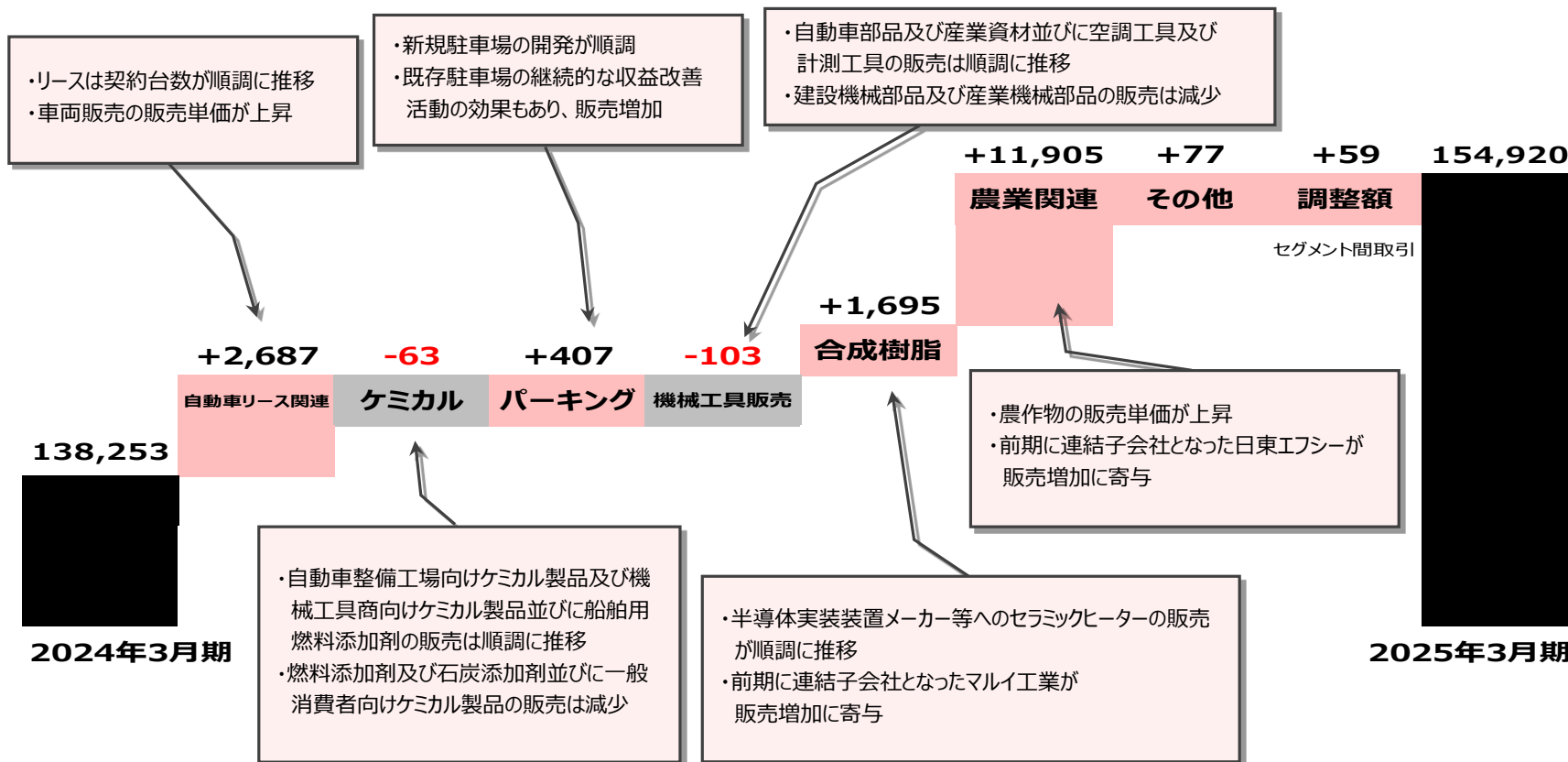
単位：百万円	2023年3月	2024年3月	2025年3月	前期比増減額
設備投資	17,448	18,952	21,623	+2,670
うちリース資産	15,640	17,404	19,349	+1,944
減価償却	17,242	17,855	18,661	+805
うちリース資産	15,375	15,681	16,130	+449

2025年3月期 連結売上高 対前期比増減要因 (百万円未満切捨)

■ 連結売上高 対前期比

単位：百万円

	自動車リース関連	ケミカル	パーキング	機械工具販売	合成樹脂	農業関連	その他	調整額	合計
前期	58,673	11,918	7,497	36,189	17,330	5,673	2,075	-1,104	138,253
当期	61,361	11,854	7,905	36,085	19,026	17,578	2,153	-1,044	154,920
前期増減	2,687	-63	407	-103	1,695	11,905	77	59	16,666



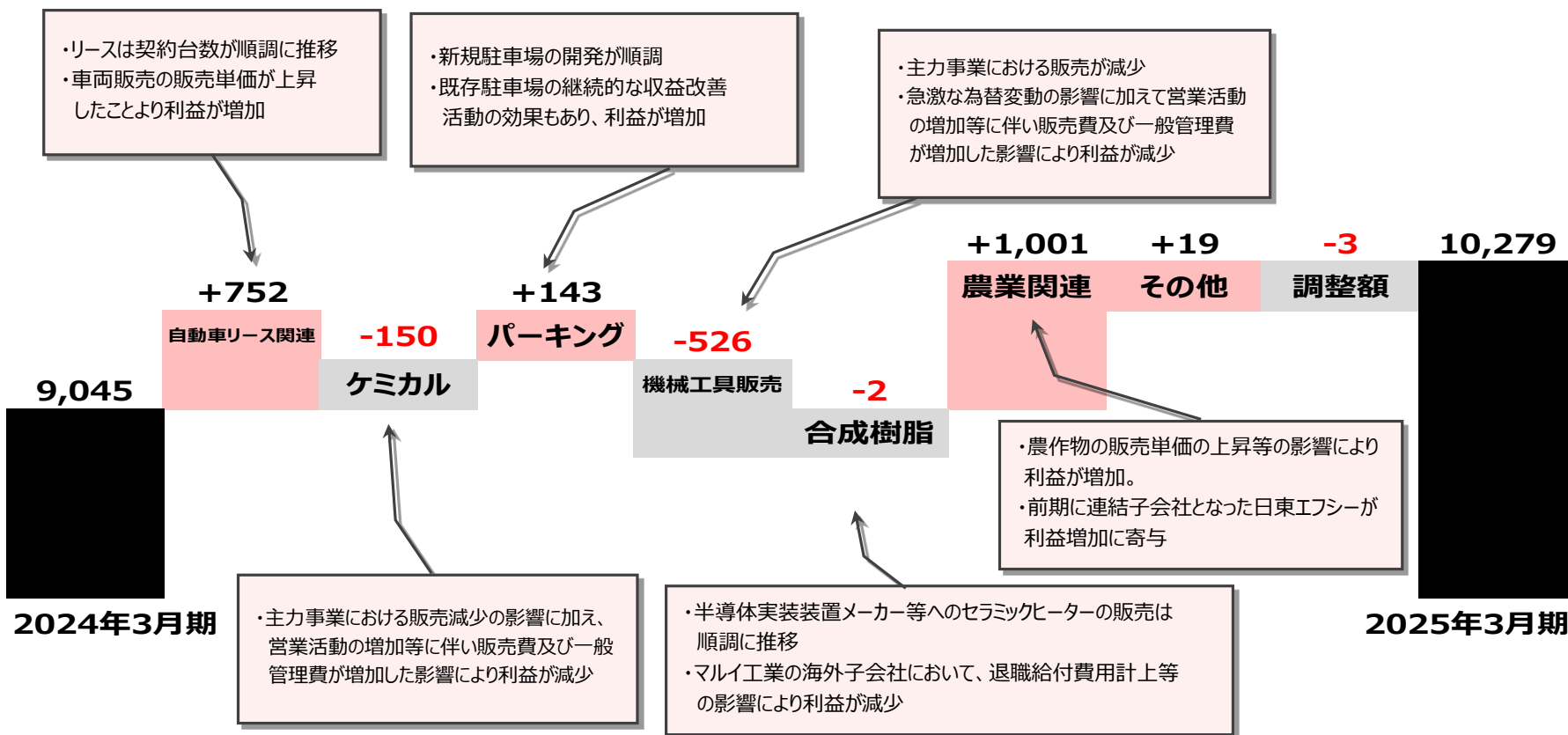
※連結売上高の要因分析は内部消去前の金額です。

2025年3月期 連結営業利益 対前期比増減要因 (百万円未満切捨)

■ 連結営業利益 対前期比

単位：百万円

	自動車リース関連	ケミカル	パーキング	機械工具販売	合成樹脂	農業関連	その他	調整額	合計
前期	5,794	998	1,121	384	339	167	216	22	9,045
当期	6,547	848	1,265	-141	336	1,168	236	19	10,279
前期増減	752	-150	143	-526	-2	1,001	19	-3	1,234



※連結営業利益の要因分析は内部消去前の金額です。

2025年3月期 連結売上高 対計画比増減要因 (百万円未満切捨)

■ 連結売上高 対計画比

単位：百万円

	自動車リース関連	ケミカル	パーキング	機械工具販売	合成樹脂	農業関連	その他	調整額	合計
計画	58,536	12,074	8,106	39,111	19,800	21,417	2,086	-1,130	160,000
実績	61,361	11,854	7,905	36,085	19,026	17,578	2,153	-1,044	154,920
計画差異	2,825	-219	-200	-3,025	-773	-3,838	67	85	-5,079

・自動車整備工場向けケミカル製品及び機械工具商
向けケミカル製品、燃料添加剤及び、一般消費者
向けケミカル製品の販売が計画を下回った

・遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売が計画を下回った
・タイ国内における日系自動車メーカーの生産台数減少の
影響により、自動車用内外装部品の販売が計画を下回った

・収益認識基準による「代理人取引」に該当する
売上高が計画には計上されているが、実績には
含まれていないため、計画との差異が生じた

・新規駐車場の開発が計画を下回った

・車両販売並びに燃料給油カードの
販売単価が計画よりも上昇

・自動車部品及び産業資材、建設機械
部品並びに産業機械部品の販売が
計画を下回った

160,000

2025年
3月期計画

-773

合成樹脂

-3,838

農業関連

+67

その他

+85

調整額

154,920

セグメント間取引

2025年
3月期実績

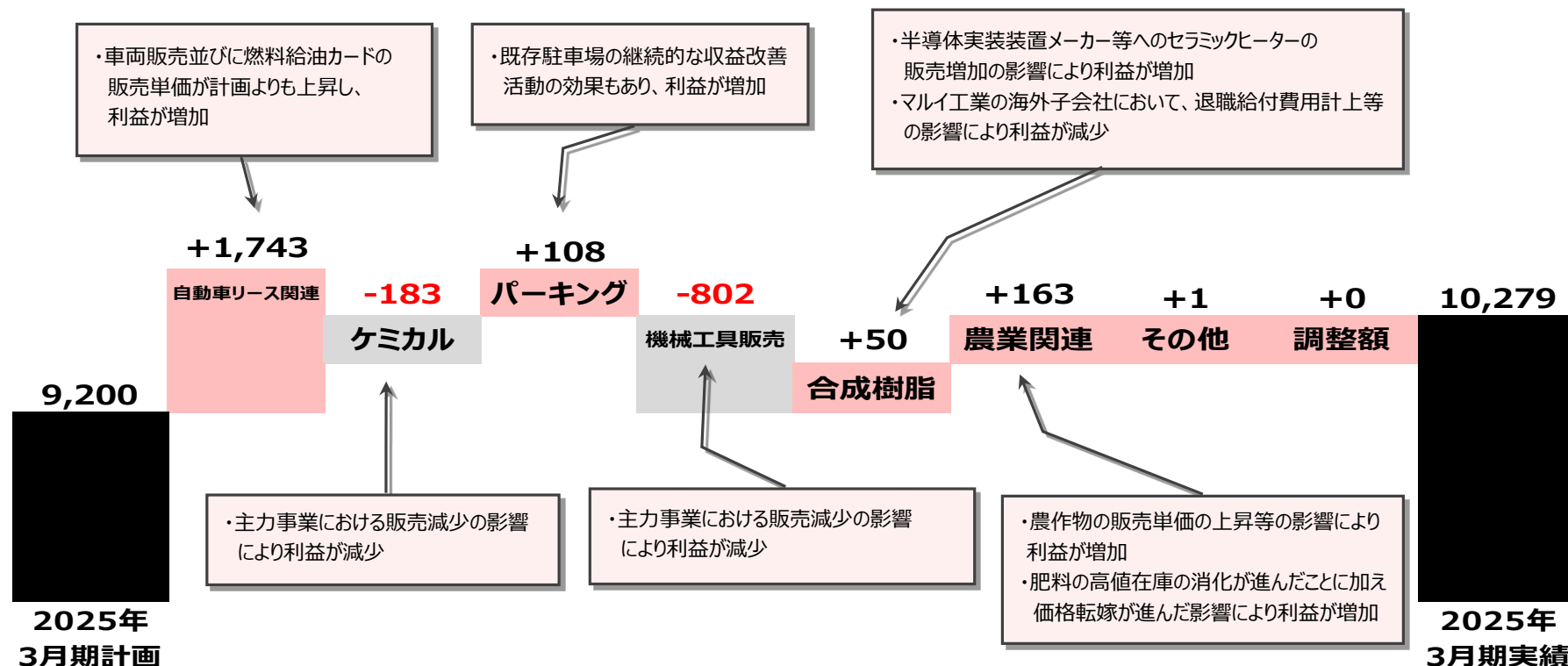
※連結売上高の要因分析は内部消去前の金額です。

2025年3月期 連結営業利益 対計画比増減要因 (百万円未満切捨)

■ 連結営業利益 対計画比

単位：百万円

	自動車リース関連	ケミカル	パーキング	機械工具販売	合成樹脂	農業関連	その他	調整額	合計
計画	4,804	1,032	1,157	661	286	1,005	235	20	9,200
実績	6,547	848	1,265	-141	336	1,168	236	19	10,279
計画差異	1,743	-183	108	-802	50	163	1	0	1,079



※連結営業利益の要因分析は内部消去前の金額です。

01

1. イチネングループが向かうところ

02

2. イチネングループの事業紹介

03

3. 決算報告

04

4. 今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 参考資料

2026年3月期 計画（連結）【2025年5月2日公表数値】（百万円未満切捨）

単位：百万円		2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期計画	前期比の主な増減要因
売上高	自動車リース関連	58,673	61,361	60,699	前期に燃料給油カード及び車両販売の販売単価が好調だったことによる反動減
	ケミカル	11,918	11,854	12,472	新規顧客の開拓、脱炭素を見据えた新製品の開発、海外展開強化
	パーキング	7,497	7,905	8,304	新規駐車場の開拓、既存駐車場の継続的な収益改善、設備リニューアルによる稼働率向上
	機械工具販売	36,189	36,085	39,466	高単価・高収益商材の販売強化、ネット販売強化、海外展開強化
	合成樹脂	17,330	19,026	21,804	次世代型遊技機向け部材の提案・販売強化、リサイクル樹脂等の販売強化、自動車用内外装部品の販売強化、新規事業分野への参入
	農業関連	5,673	17,578	18,150	農作物の収穫量増加、農作物の加工品開発の強化、農作業省力肥料等のラインナップ拡充や販売強化
	その他	2,075	2,153	2,143	
	調整額	▲1,104	▲1,044	▲1,038	
	合 計	138,253	154,920	162,000	
営業利益	自動車リース関連	5,794	6,547	5,467	前期に燃料給油カード及び車両販売の販売単価が好調だったことによる反動減
	ケミカル	998	848	988	新規顧客の開拓、脱炭素を見据えた新製品の開発、海外展開強化
	パーキング	1,121	1,265	1,358	新規駐車場の開拓、既存駐車場の継続的な収益改善
	機械工具販売	384	▲141	603	高収益な自社オリジナル商品の販売強化、ネット販売強化、海外展開強化
	合成樹脂	339	336	511	次世代型遊技機向け部材の提案・販売強化、リサイクル樹脂等の販売強化、自動車用内外装部品の販売強化、新規事業分野への参入
	農業関連	167	1,168	1,228	農作物の収穫量増加、農作物の加工品開発の強化、農作業省力肥料等のラインナップ拡充や販売強化
	その他	216	236	230	
	調整額	22	19	15	
	合 計	9,045	10,279	10,400	
経常利益		9,460	10,318	10,030	
親会社株主に帰属する当期純利益		12,253	6,657	6,200	
株主資本利益率（ROE）		22.54%	10.65%	9.26%	
総資産経常利益率（ROA）		5.05%	5.06%	4.80%	

2026年3月期 四半期セグメント別利益計画 (百万円未満切捨)



単位：百万円		第1四半期	第2四半期（累計）	第3四半期（累計）	第4四半期（累計）
自動車リース関連	売上高	15,192	30,643	45,770	60,699
	売上総利益	2,983	6,320	8,972	12,415
	営業利益	1,280	2,921	3,836	5,467
ケミカル	売上高	3,007	6,103	9,470	12,472
	売上総利益	1,248	2,549	3,892	5,120
	営業利益	193	480	779	988
パーキング	売上高	2,015	4,098	6,212	8,304
	売上総利益	529	1,109	1,693	2,227
	営業利益	316	683	1,050	1,358
機械工具販売	売上高	9,554	19,505	29,559	39,466
	売上総利益	1,856	3,855	5,753	7,692
	営業利益	68	305	431	603
合成樹脂	売上高	5,145	10,582	16,544	21,804
	売上総利益	987	2,050	3,218	4,318
	営業利益	46	148	377	511
農業関連	売上高	4,958	8,555	12,988	18,150
	売上総利益	1,177	1,590	2,334	3,181
	営業利益	628	591	842	1,228
その他	売上高	494	998	1,613	2,143
	売上総利益	163	331	566	736
	営業利益	32	75	184	230
調整額	売上高	▲241	▲484	▲779	▲1,038
	売上総利益	▲39	▲76	▲114	▲152
	営業利益	4	7	11	15
合 計	売上高	40,124	80,000	121,377	162,000
	売上総利益	8,904	17,728	26,314	35,537
	営業利益	2,567	5,210	7,510	10,400

01

1. イチネングループが向かうところ

02

2. イチネングループの事業紹介

03

3. 決算報告

04

4. 今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 参考資料

株主還元について

01

配当に関する方針

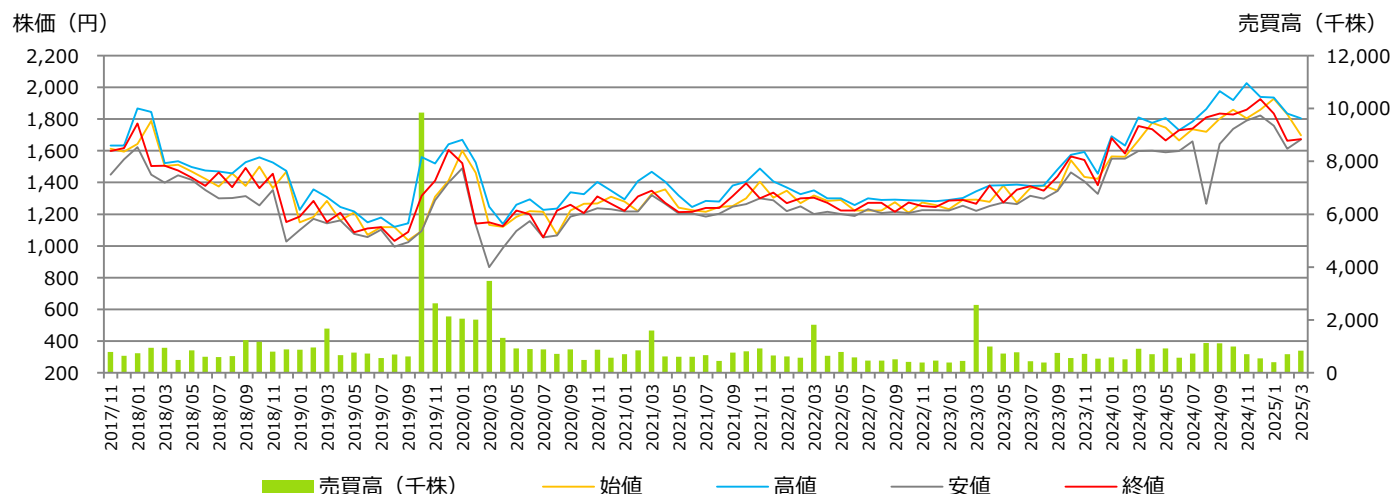
- 連結業績を基本とする配当政策といたします。
- 配当性向は、連結当期純利益の20%～30%程度とすることを目標として検討しております。

1株あたりの配当金（予想）

中間期末	期 末	年 間
35円	35円	70円

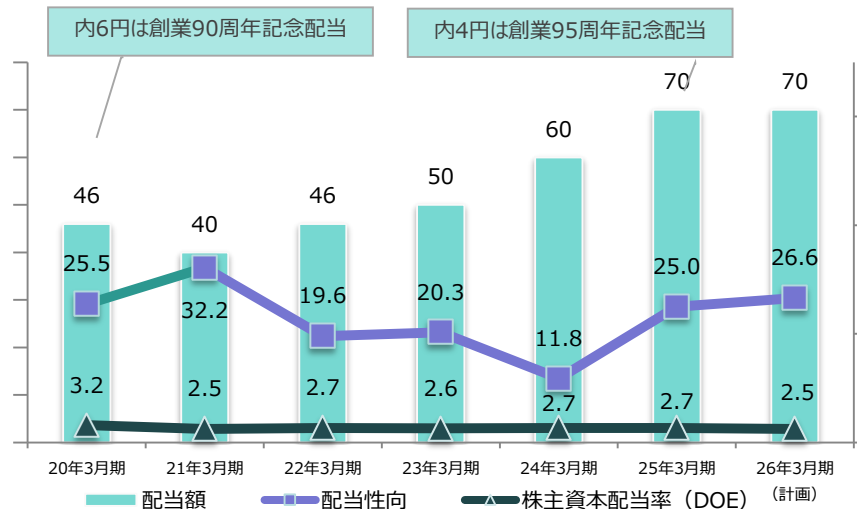
02

株価の推移



※株価及び売買高の表示は月次ベースです。(株価は月末時点の数値、売買高は月の売買高の合計)

配当額、配当性向、DOEの推移



当社は2023年3月末日時点の株主名簿に記載された株主様への贈呈をもって、株主優待制度を廃止いたしました。

01

1. イチネングループが向かうところ

02

2. イチネングループの事業紹介

03

3. 決算報告

04

4. 今期の計画

05

5. 株主還元について

06

6. 参考資料

統合報告書・TCFDレポート発刊のご案内



◇統合報告書

東証プライム上場企業として、非財務情報の開示を一層強化するため、2021年よりグループ横断の社内プロジェクトを組成し、統合報告書の制作を進めてまいりました。

イチネングループの企業価値創造に向けた取り組みを掲載しておりますので、下記URLより是非ご覧ください。

統合報告書掲載サイト

<https://www.ichinenhd.co.jp/ir/library6/>

◇TCFDレポート

2021年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードにより、東証プライム上場企業には、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の枠組みに基づいた気候変動問題に対する情報開示が求められています。

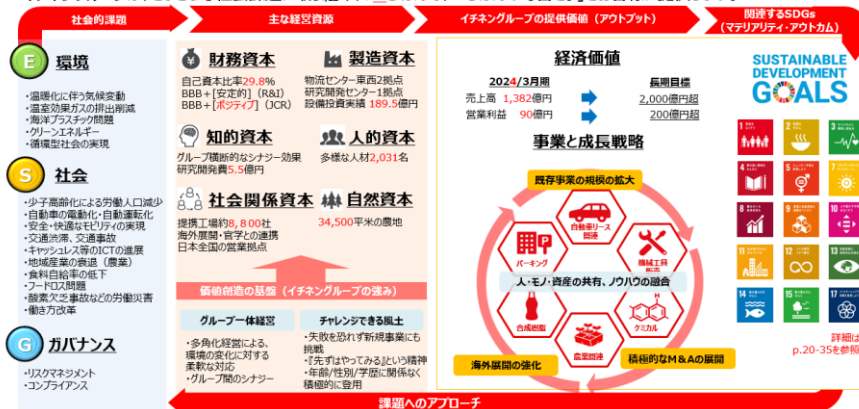
現状において、当社グループが認識している気候変動問題に係るリスク、機会、並びにそれらへの対応策等について、『イチネングループTCFDレポート』として取りまとめましたので、是非下記URLよりご覧ください。

TCFDレポート掲載サイト

<https://www.ichinenhd.co.jp/environment/tcfd/>

価値創造モデル

イチネングループは、さまざまな社会課題に取り組み、「いちねんで、いちばんの毎日。」をお客様に提供します。



イチネングループ TCFDレポート 2024

参考資料：環境問題への取り組み

イチネングループは**多様な事業展開**を強みとして、**様々なソリューション**により**環境問題の解決に貢献**します

環境問題の分類	解決すべき課題	イチネングループのソリューション
気候変動	温室効果ガスの増加 オゾン層の破壊	【自動車リース関連事業】 ◆「イチネンテレマティクス」の販売によるエコドライブの推進（P.52参照） ➢ <u>CO2排出量の削減に貢献</u> 【パーキング事業】 ◆駐車場の開発促進による交通渋滞緩和（P.51参照） ➢ <u>CO2排出量の削減に貢献</u> 【機械工具販売事業】 ◆「冷媒回収装置」の開発、販売によるフロンガスの漏洩防止（P.51参照） ➢ <u>オゾン層の破壊防止に貢献</u>
海洋汚染	プラスチックごみの海洋流出 (マイクロプラスチック問題)	【ケミカル事業】 ◆汎用樹脂用バイオマス添加剤「ONEバイオ」の開発、販売（P.51参照） ➢ <u>プラスチック使用料の削減に貢献</u> 【合成樹脂事業】 ◆自社ブランドのリサイクル樹脂の開発、販売（P.51参照） ➢ <u>プラスチック使用料の削減に貢献</u>

参考資料：ESG・SDGsの取り組み



Environment [環境]



■ケミカル事業：脱炭素社会に貢献するバイオマス添加剤について

イチネンケミカルズは、長年にわたる火力発電向け燃料添加剤の製造技術・経験を応用して、**バイオマス発電向けの燃料添加剤「バイオニックシリーズ」**を展開しております。

また、新たに開発した**汎用樹脂向けバイオマス添加剤「ONE バイオ」**は、汎用樹脂（PE・PP）ペレットに混ぜることで、製品の原料の一部を植物由来原料とすることができ、脱炭素社会の実現に貢献できる製品となっています。



■パーキング事業：交通渋滞緩和による環境負荷の低減

駐車場不足は違法駐車を引き起こす一因であり、違法駐車は交通渋滞や交通事故などに繋がります。駐車場の開発を推進することで、交通渋滞緩和による環境負荷の低減を実現します。



■機械工具販売事業：オゾン層保護・地球温暖化防止大賞 受賞！

オゾン層保護対策と地球温暖化防止や対策の促進を目的として、日刊工業新聞社が毎年実施している「**オゾン層保護・地球温暖化防止大賞**」において、イチネンTASCOの

「冷媒回収装置「クワトロ」TA110VF」が「**経済産業大臣賞**」を受賞いたしました。

【改善点】

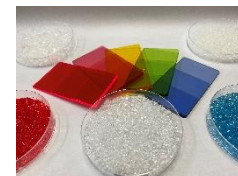
・パワフルな4ピストンコンプレッサーや独自の運転切替機能をはじめとした数々の技術・機能により、残存フロン回収の能力を向上。



■合成樹脂事業：リサイクルペレットの製造/販売

イチネン製作所は、企業から排出されるプラスチックゴミからリサイクルペレットを製造、販売しており、リサイクル材では難しい『自社ブランドの規格品』を揃え、「モノづくり」を行うメーカー企業様を中心に広くご提供できる体制を整えております。

リサイクル案件は環境問題への貢献に繋がる事業であり、積極的に推進いたします。

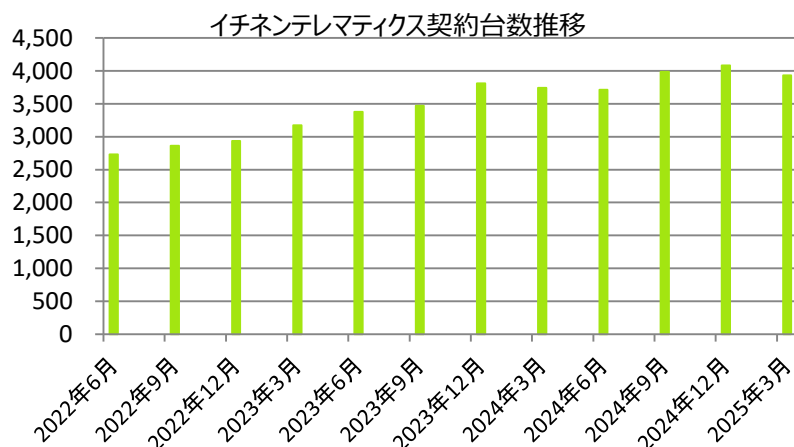


参考資料：ESG・SDGsの取り組み



■自動車リース関連事業：イチネンテレマティクスによる交通事故撲滅のご提案

2015年よりイチネンテレマティクス(車載端末を活用した情報サービス)の販売を開始し、リース車両の商談ではテレマティクスによる交通事故撲滅の提案を推進しております。テレマティクスから得られた情報を基に、ドライバーの安全運転管理・教育を行い、お客様の交通事故削減を目指します。また、エコドライブへの意識向上により燃費が改善し、CO2削減が期待されます。



■農業を通じた地域貢献

日本の誇るべき農業を通じて雇用を促進させ、地域コミュニティとの連携も行い、地域活性化に貢献できるよう努力し、安全、安心、そして美味しい野菜をお届けします。さらに、農場では海外からの技能実習生も受け入れており、途上国への技術の移転や普及に農業を通じて貢献できるよう取り組んでまいります。



■女性役員比率21.4%

2023年7月末時点における東証プライム上場企業の女性役員比率13.4%を大きく上回る水準となっております。

(引用：内閣府 男女共同参画局
2023年度プライム市場上場企業「女性役員比率」調査)

■取締役及び監査役 (2025年4月1日現在)

代表取締役社長	黒田 雅史
取締役副社長	黒田 勝彦
取締役常務執行役員	村中 正
取締役常務執行役員	井本 久子
取締役	木村 平八
取締役	飯室 治
取締役(社外)	廣富 靖以
取締役(社外)	川村 群太郎
取締役(社外)	下村 信江
取締役(社外)	宮口 亜希
常勤監査役	足立 広志
常勤監査役(社外)	青山 俊治
常勤監査役(社外)	奥田 雅輝
監査役(社外)	中川 一之

■指名・報酬委員会の設置

取締役の指名・報酬等に関する手続きの公正性、透明性、客観性を強化し、コーポレートガバナンスの充実に図るため、取締役会の任意の諮問機関として2021年3月より指名・報酬委員会を設置いたしました。委員5名中3名が社外取締役で構成されております。

■取締役会の実効性評価

2019年3月期からは取締役会の実効性に関する自己評価を開始し、その結果を公表するとともに、必要な改善に取り組んでおります。

参考資料：知名度向上戦略



- 2014年10月より、全国ネットでテレビCMを放映しております。
- 当社の事業は、これまでのBtoB中心の領域からBtoCの領域に広がっており
- “イチネン”の知名度向上により、更なる事業拡大を図ります。

新光硝子工業のご紹介

01 新光硝子工業株式会社 会社概要



- 新光硝子工業株式会社
SHINKO GLASS INDUSTRY CO., LTD.
- 代表取締役社長 関谷 智宏
- 設立 1953年8月1日
- 本社 富山県砺波市太田1889-1
- 資本金 50百万円
- 売上高 18億円（2023年3月期）
（※子会社である新生ガラス㈱を含む）

03 グループ化の目的

新光硝子工業株式会社は、ガラス加工製品の製造・販売を行っている企業であり、当社グループにはない事業領域での製品開発力や技術力に加え、盤石な営業基盤を有する企業です。

今後、同社の事業を当社グループの新規事業と位置づけ、経営資源を投入する事により一層の事業拡大を目指すとともに、同社が保有するガラス製品加工に関する高度な技術と、当社グループのケミカル事業や機械工具販売事業、合成樹脂事業における製品製造の技術・ノウハウを融合することで、新たな事業分野への進出を目指してまいります。

02 技術紹介

● 東京証券取引所マーケットセンター



● 曲げガラスケース



マルイ工業株式会社のご紹介

01 マルイ工業株式会社 会社概要



- マルイ工業株式会社
Marui Industrial Co., Ltd.
- 代表取締役社長 中澤 鉄
- 設立 1947年6月7日
- 本社 新潟県胎内市高畑字新割53番地2
- 資本金 100百万円
- 売上高 7,328百万円（2025年3月期）
（※マルイ工業及び子会社2社の単純合算）

03 グループ化の目的

マルイ工業は、国内外において樹脂を利用したエンブレム等の自動車用内外装部品を製造・販売しております。

グループ化に伴い、既存の合成樹脂事業とマルイ工業のそれぞれが持つ樹脂製品の製造ノウハウの共有や製造拠点の相互活用、機械工具販売事業においては製品ラインナップの拡充による収益基盤の強化が期待でき、さらにはマルイ工業のタイにおける製造・販売拠点を当社グループ全体で活用することにより、当社グループが注力する海外事業の規模拡大に大きく寄与するものと考えております。

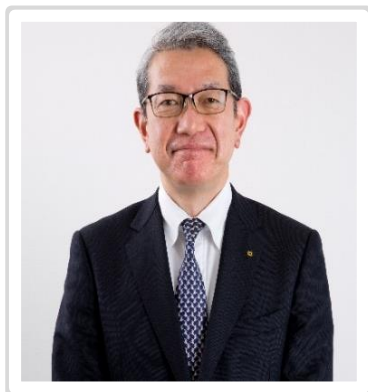
02 技術紹介

自動車用エンブレム等外装部品



日東エフシー株式会社のご紹介

01 日東エフシー株式会社 会社概要



- 日東エフシー株式会社
NITTO FC Co., Ltd.
 - 代表取締役社長 木村 平八
 - 創立 1952年1月18日
 - 本社 名古屋市港区いろは町1-23
 - 資本金 100百万円
 - 売上高 30,114百万円 (2025年3月期)
- (※日東エフシー及び子会社9社の単純合算)

03 グループ化の目的

日東エフシーは、国内において70数年に亘り化成肥料、配合肥料、液体肥料、土壌改良材などを製造・販売しております。また、自社で保有する試験圃場や土壌分析設備を活用し、肥料の販売のみならず農家への栽培指導も行うなど、農業現場における豊富な知見を有しております。

本件の株式取得に伴い、日東エフシーグループが持つ農業関連の知見、技術を当社グループの農業関連事業の規模拡大及び収益性向上に最大限活かすことができ、さらには肥料事業に係る技術開発力と、当社グループのケミカル事業が持つ技術力を融合することで、新製品の開発や新規事業領域への進出にも繋げてまいりたいと考えております。

02 製品紹介

作物・使用時期・使用用途に合わせた各種肥料



日石硝子工業株式会社のご紹介

01 日石硝子工業株式会社 会社概要



- 日石硝子工業株式会社
NISSEKI GLASS INDUSTRY CO., LTD.
- 代表取締役社長 関谷 智宏
- 設立 2025年3月31日
- 本社 富山県高岡市戸出栄町 7 番地
- 資本金 10百万円
- 売上高 674百万円（2024年10月期）

03 グループ化の目的

日石硝子工業は、ガラス加工製品の製造・販売を行っている企業であり、大手企業への OEM 供給をはじめ、自社オリジナル製品の販売も展開するなど、住宅・オフィス・商業施設等向けに幅広く製品を供給している企業です。

グループ化に伴い、ガラス加工製品の製造・販売を手掛ける新光硝子工業グループとの間で、ガラス製品の技術開発面での連携、原材料等の調達面におけるスケールメリット、商品ラインナップの拡充等の様々なシナジーが期待でき、ガラス加工製品の製造販売事業の規模拡大及び収益性の向上が実現できるものと考えております。

02 技術紹介

● 液晶調光ガラス マジックヴェール



● 装飾合わせガラス



ヨドバシカメラマルチメディア梅田様 立体歩道橋

PBR向上に向けた対策

株主還元の強化

安定的な利益創出

将来に向けて積極投資

海外事業への投資拡大（海外売上高比率**20%**目標）

パーキング事業に積極的な設備投資

中長期戦略

中期目標

営業利益：**150億**円超 自己資本：**750億**円超 自己資本比率：**35%超**

長期目標

売上高：**2,000億**円超 営業利益：**200億**円超

ご清聴ありがとうございました。



ICHINEN HOLDINGS

【9619】

このプレゼンテーション資料には、現時点での将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。実際の業績は、今後のさまざまな要因によって、これらの計画・見通しとは異なる可能性があります。